

## 第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果

## 第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果

### 1. 基本的事項

#### (1) 年齢

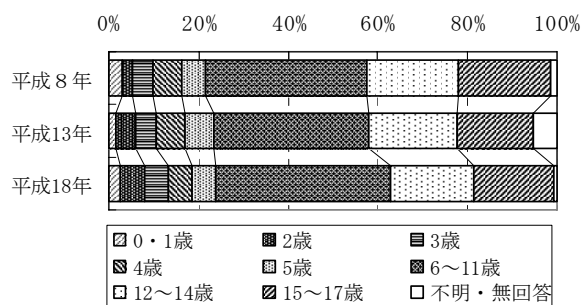
##### 問1 お子さんの年齢は満何歳ですか。

- ・ 今回調査では、「6～11歳」が39.0%と最も多く、次いで“6歳未満”が23.6%、「12～14歳」が18.7%、「15～17歳」が17.9%と続いており、小学校期の年齢層が多くなっている。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「6～11歳」の小学校期の層が増加し、「12～14歳」の層が減少する傾向にある。

問1 年齢

(単位:%)

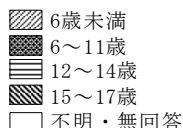
	平成8年	平成13年	平成18年
0・1歳	3.2	1.5	2.8
2歳	2.3	4.6	5.0
3歳	4.2	4.6	5.4
4歳	6.5	6.3	5.2
5歳	5.5	6.6	5.2
6～11歳	35.8	34.6	39.0
12～14歳	20.4	19.7	18.7
15～17歳	20.5	16.9	17.9
不明・無回答	1.6	5.3	0.7
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



- ・ 障害の種類別でみると、「視覚障害」では、他の障害の種類に比べて「15～17歳」の比率が高い。

問5 障害の種類 × 問1 年齢

障害の種類	件数	割合 (%)	6歳未満 (%)	6～11歳 (%)	12～14歳 (%)	15～17歳 (%)
1. 視覚障害	9	2.0	55.6	11.1	33.3	
2. 聴覚障害	95	20.7	23.2	34.7	18.9	23.2
3. 肢体不自由	248	54.0	22.6	42.7	19.4	14.5
4. 内部障害	99	21.6	29.3	31.3	18.2	20.2
不明・無回答	8	1.7				
回答者総数	459	100.0	23.7	39.0	18.7	17.9



(2) 性別

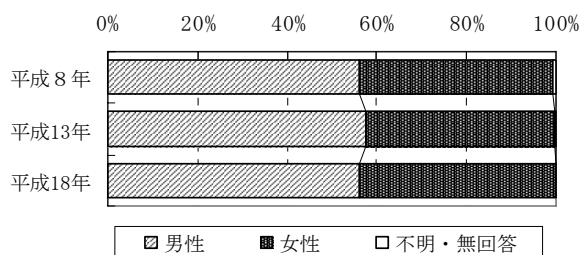
問2 お子さんの性別をお答えください。

- ・ 今回調査では、「男性」が 56.0%、「女性」が 44.0%となっており、男性の比率が高くなっている。
- ・ 経年的には、大きな変化は見られない。

問2 性別

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
男性	55.9	57.5	56.0
女性	43.2	42.2	44.0
不明・無回答	0.9	0.3	0.0
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



(3) 世帯の人数

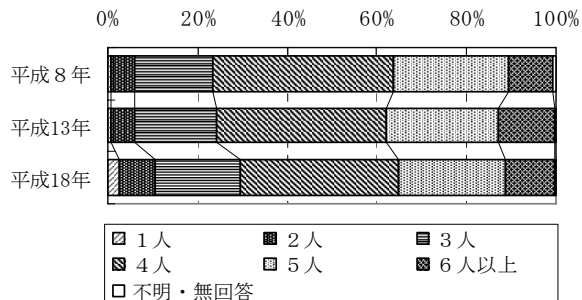
問3 お子さんの世帯の人数は何人ですか。お子さん本人も含めてお答えください。

- ・ 今回調査では、「4人」が 35.3%、「5人」が 23.7%、「3人」が 19.0%と続いている。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「1人」や「2人」の比率が増加しており、世帯規模が小さくなっている様子が分かる。

問3 世帯の人数

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
1人	0.7	0.8	2.8
2人	5.5	5.3	7.8
3人	17.2	18.0	19.0
4人	40.4	38.0	35.3
5人	25.7	25.1	23.7
6人以上	9.7	12.5	10.9
不明・無回答	0.9	0.3	0.4
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



(4) 世帯の生計中心者

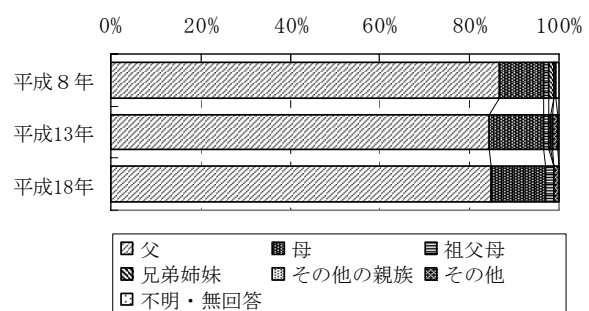
問4 お子さんの世帯で主に家計を支えている方（生計中心者）はどなたですか。お子さんからの続柄でお答えください。

- ・ 今回調査では、「父」が85.0%で最も多く、次いで「母」が12.0%と続いている。
- ・ 経年的には、大きな変化は見られない。

問4 世帯の生計中心者

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
父	86.7	84.6	85.0
母	9.9	11.9	12.0
祖父母	1.2	1.4	1.7
兄弟姉妹	0.9	0.3	0.0
その他の親族	0.0	0.3	0.0
その他	0.4	1.2	1.3
不明・無回答	0.9	0.3	0.0
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



## 2. 障害の種類・程度・内容

### (1) 障害の種類

問5 お子さんの障害の種類は次のうちどれですか。お持ちの身体障害者手帳を見てお答えください。（障害が重複しているお子さんは、主な障害を1つお答えください。）

- ・ 障害の種類については、「肢体不自由」が54.1%で最も多く、次いで「内部障害」の21.7%、「聴覚障害」の20.7%、「視覚障害」が2.0%となっている。
- ・ 経年的には、「肢体不自由」の比率が微増する傾向が見られるが、大きな変化には至っていない。

問5 障害の種類

(単位:%)

障害の種類	主な障害	平成8年		平成13年		平成18年	
視覚障害	視覚	3.5	3.5	4.2	4.2	2.0	2.0
聴覚障害	聴覚・言語	19.6	21.2	18.7	21.0	16.1	20.7
	聴覚・平衡	1.2		1.5		3.3	
	音声・言語等	0.4		0.8		1.3	
肢体不自由	片上肢	2.5	51.0	2.2	52.4	2.0	54.1
	両上肢	0.9		0.7		2.0	
	片下肢	1.2		2.2		0.9	
	両下肢	8.8		8.6		9.8	
	片上下肢	4.2		3.4		3.3	
	四肢	25.8		28.0		25.9	
	体幹等	7.6		7.3		10.2	
内部障害	心臓	20.0	22.5	17.9	21.0	17.9	21.7
	じん臓	0.7		0.3		0.9	
	呼吸器	0.4		0.5		0.9	
	ぼうこう等	1.2		2.0		2.0	
	小腸	0.2		0.3		0.0	
	免疫	-		0.0		0.0	
不明・無回答		1.6		1.4		1.7	
合計		100.0		100.0		100.0	
N		565		590		459	

(2) 障害の重複

問6 障害が重複しているお子さんは、「問5」でお答えいただいた種類以外のすべての障害の種類を「問5」で分類した1～17の項目から選んで、3つまでお答えください。

- ・ 重複障害の状況を見ると、今回調査では、「主な障害のみ」が 61.7%、「二重障害」が 18.3%、「三重障害」が 10.2%、「四重障害」が 9.8%となっている。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「主な障害のみ」の比率は減少し、「三重障害」や「四重障害」の比率が増加しており、障害の重度化が進んでいる状況がうかがえる。

重複障害の状況

	主な障害のみ	二重障害	三重障害	四重障害	合計
平成8年調査	386 (68.3%)	88 (15.6%)	53 (9.4%)	38 (6.7%)	565 (100.0%)
平成13年調査	408 (69.2%)	101 (17.1%)	43 (7.3%)	38 (6.4%)	590 (100.0%)
平成18年調査	283 (61.7%)	84 (18.3%)	47 (10.2%)	45 (9.8%)	459 (100.0%)

\* 各年とも重複している障害の種類が「不明・無回答」の場合は「重複なし」としてカウントした。

- ・ 主な重複障害について、多いもの順に見ると「体幹等」が 17.6%、「音声・言語等」が 12.4%となっており、この両者の比率が高い。
- ・ 前回調査と比べて、「肢体不自由」と「内部障害」の比率が増加している。

問6 障害の重複（複数回答3）

(単位:%)

障害の種類	主な重複障害	平成8年	平成13年	平成18年	
視覚障害	視覚	6.9	6.9	6.8	
	聴覚障害	聴覚・言語	3.4	2.2	3.5
		聴覚・平衡	1.2	2.0	0.4
	音声・言語等	12.6	11.2	12.4	
肢体不自由	片上肢	1.1	0.7	1.5	
	両上肢	1.6	1.0	2.2	
	片下肢	0.4	1.0	0.4	
	両下肢	4.2	1.7	3.3	
	片上下肢	1.9	0.7	0.7	
	四肢	6.9	6.6	8.9	
	体幹等	12.4	11.4	17.6	
内部障害	心臓	1.4	1.2	2.4	
	じん臓	1.4	0.8	1.3	
	呼吸器	1.2	1.4	3.1	
	ぼうこう等	4.4	2.7	3.5	
	小腸	0.2	0.0	0.0	
	免疫	-	0.0	0.2	
不明・無回答		66.5	69.2	61.7	
合計		127.8	120.4	129.8	
N		565	590	459	

第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果

- ・ 障害の種類別では、「肢体不自由」同士の組み合わせが最も多く、次いで「肢体不自由」と「聴覚障害」の組み合わせとなっている。

問5 障害の種類 × 問6 重複している障害の種類（複数回答3）  
 上段：実数（件）  
 下段：横構成比（%）

問6		重複している障害の種類（複数回答3）					回答者総数
問5		1. 視覚障害	2. 聴覚障害	3. 肢体不自由	4. 内部障害	不明・無回答	
障害の種類	1. 視覚障害	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 100.0	9 100.0
	2. 聴覚障害	2 2.1	3 3.2	5 5.3	2 2.1	87 91.6	95 100.0
	3. 肢体不自由	25 10.1	66 26.6	140 56.5	43 17.3	97 39.1	248 100.0
	4. 内部障害	4 4.0	6 6.1	11 11.1	3 3.0	83 83.8	99 100.0
	不明・無回答	0 0.0	0 0.0	3 37.5	0 0.0	7 87.5	8 100.0
	回答者総数	31 6.8	75 16.3	159 34.6	48 10.5	283 61.7	459 100.0

(3) 身体障害者手帳の等級

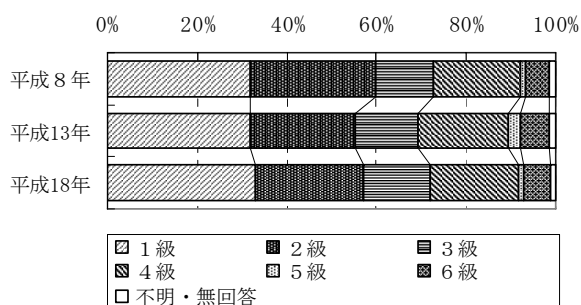
問7 お子さんをお持ちの身体障害者手帳の等級（障害の程度）は何級ですか。身体障害者手帳を見て、お答えください。

- ・ 今回調査では、「1級」が32.9%、「2級」が24.4%、「4級」が19.4%、「3級」が14.8%と続いており、「1～2級」の重度障害の割合が、約6割となっている。
- ・ 経年的には、大きな変化は見られない。

問7 身体障害者手帳の等級

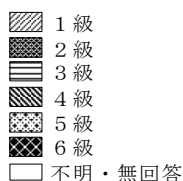
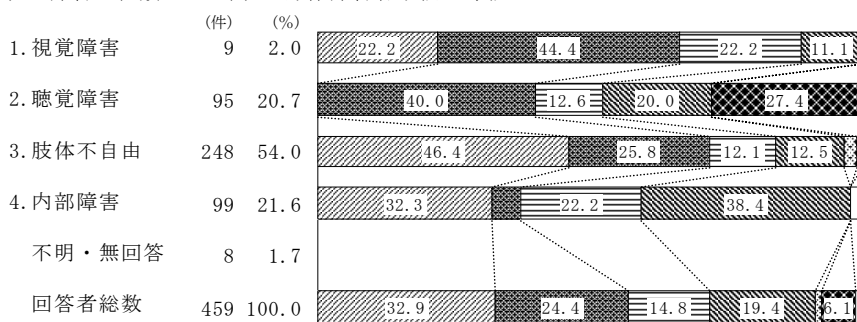
(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
1級	31.9	32.0	32.9
2級	28.0	23.4	24.4
3級	12.7	13.9	14.8
4級	19.3	20.2	19.4
5級	1.4	2.7	1.3
6級	5.1	6.3	6.1
不明・無回答	1.6	1.5	1.1
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



- ・ 障害の種類別で見ると、「視覚障害」及び「聴覚障害」では「2級」が多く、「肢体不自由」では「1級」が、「内部障害」では「4級」が多くなっている。

問5 障害の種類 × 問7 身体障害者手帳の等級





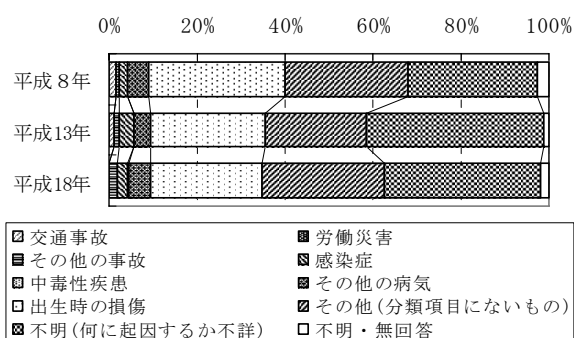
(4) 障害を受けた原因

問8 お子さんが身体に障害を受けた主な原因は何ですか。主な原因を1つお答えください。

- ・ 今回調査では、「不明（何に起因するか不詳）」が35.3%、「その他（分類項目にないもの）」が27.9%、「出生時の損傷」が25.3%となっている。
- ・ 経年的には、「出生児の損傷」が微減傾向にあるが、前回調査と比べると、「その他（分類項目にないもの）」の比率が増加し、「不明（何に起因するか不詳）」が減少している。

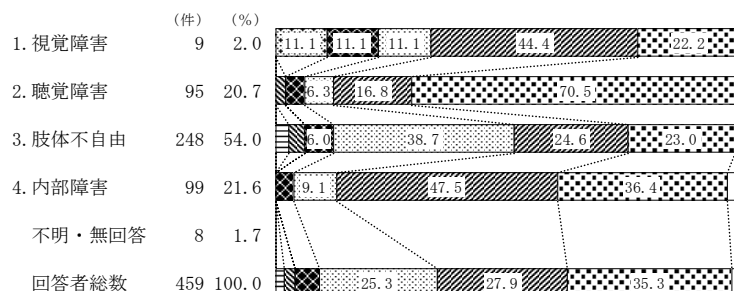
問8 障害を受けた原因

	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
交通事故	1.4	1.0	0.0
労働災害	0.0	0.2	0.0
その他の事故	0.9	1.2	1.7
感染症	1.9	3.2	2.4
中毒性疾患	0.0	0.2	0.2
その他の病気	5.0	3.7	5.2
出生時の損傷	30.6	26.1	25.3
その他(分類項目にないもの)	28.1	22.9	27.9
不明(何に起因するか不詳)	29.4	40.3	35.3
不明・無回答	2.7	1.2	2.0
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



- ・ 障害の種類別で見ると、「視覚障害」では「その他（分類項目にないもの）」が44.4%で最も多く、「聴覚障害」では「不明（何に起因するか不詳）」が70.5%、「肢体不自由」では「出生児の損傷」が38.7%、「内部障害」では「その他（分類項目にないもの）」が47.5%と多くなっている。

問5 障害の種類 × 問8 障害を受けた原因



- 交通事故
- 労働災害
- その他の事故
- 感染症
- 中毒性疾患
- その他の病気
- 出生時の損傷
- その他(分類項目にないもの)
- 不明(何に起因するか不詳)
- 不明・無回答

(5) 障害を受けた時期

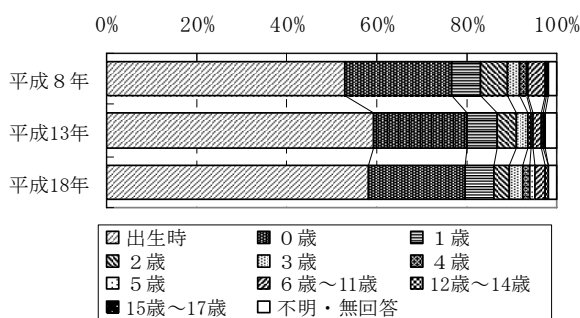
問9 障害を受けた時期はいつですか。（最初に障害が発生したときの満年齢をお答えください。病気の場合は発病時を意味します。）

- ・ 今回調査では、「出生時」が58.0%で最も多く、次いで「0歳」が21.8%であり、この両者の比率が高くなっている。
- ・ 経年的には、大きな変化は見られない。

問9 障害を受けた時期

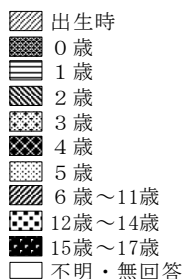
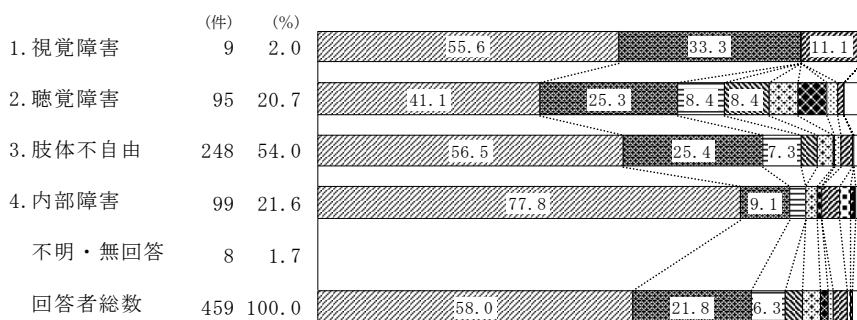
(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
出生時	52.7	59.2	58.0
0歳	23.9	20.7	21.8
1歳	6.5	6.8	6.3
2歳	6.0	4.4	3.3
3歳	2.7	2.4	3.1
4歳	1.2	0.8	1.5
5歳	0.5	0.5	1.1
6歳～11歳	3.9	1.9	2.4
12歳～14歳	0.4	0.3	0.7
15歳～17歳	0.2	0.5	0.2
不明・無回答	1.9	2.5	1.7
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



- ・ 障害の種類別で見ると、いずれの障害においても「出生時」の比率が高いが、「内部障害」では特に高く77.8%を占めている。次いで「肢体不自由」で56.5%、「視覚障害」で55.6%、「聴覚障害」で41.1%と続いている。

問5 障害の種類 × 問9 障害を受けた時期

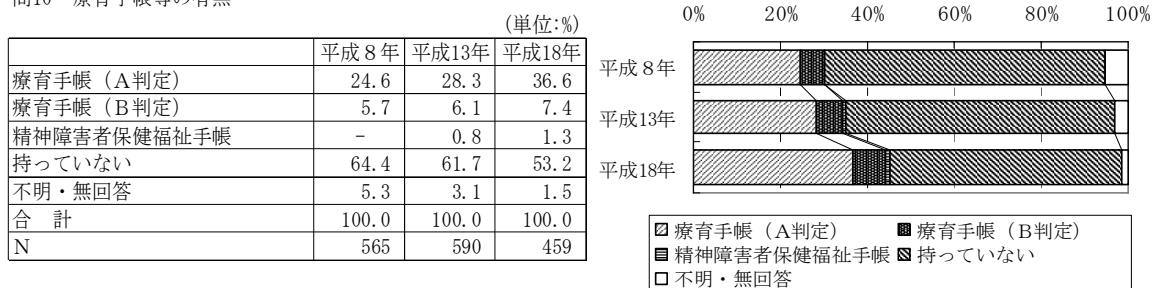


(6) 療育手帳等の有無

問10 お子さんは、次の手帳をお持ちですか。

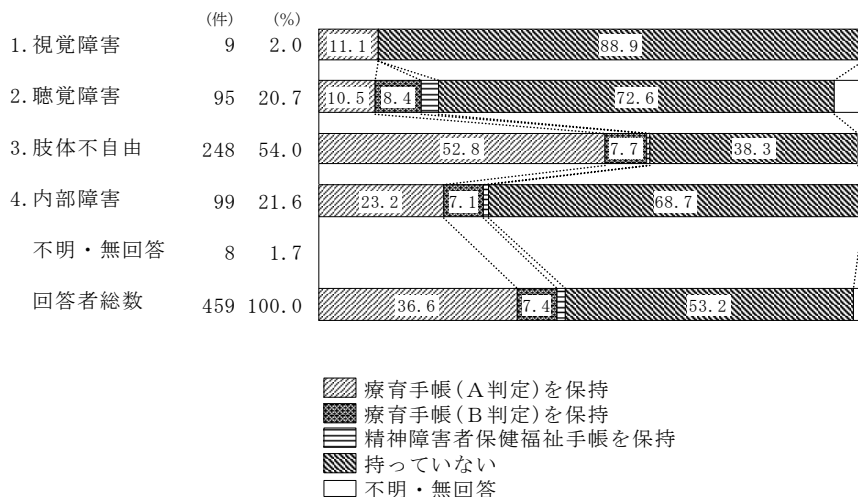
- ・ 今回調査では、「持っていない」が53.2%で最も多く、次いで「療育手帳（A判定）」が36.6%、「療育手帳（B判定）」が7.4%、「精神障害者保健福祉手帳」が1.3%と続いている。
- ・ 経年的には、「療育手帳（A判定）」の比率は増加し、「持っていない」の比率が減少傾向にある。

問10 療育手帳等の有無



- ・ 障害の種類別で見ると、「肢体不自由」では、「療育手帳（A判定）」が52.8%を占め最も多くなっている。その他の障害の種類では「持っていない」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問10 療育手帳等の有無



### 3. 生活の状況

#### (1) 日常生活動作（IADL）の状況

問11 お子さんの日常生活上の動作についておたずねします。  
 お子さんは(1)～(7)までの動作が一人でできますか。次の各動作ごとに、いずれか1つ、番号を選んでお答えください。（この場合、「できる」、「できない」の判断は現に所持している補装具や自助具をつけた状態で判断してください。）

1. 介助の必要なし 2. 一部介助が必要 3. 全部介助が必要

(1) 食事をする  
 (2) トイレに行く  
 (3) 入浴をする  
 (4) 着替えをする  
 (5) 家の中を歩く  
 (6) 階段を昇り降りする  
 (7) 寝返りをする

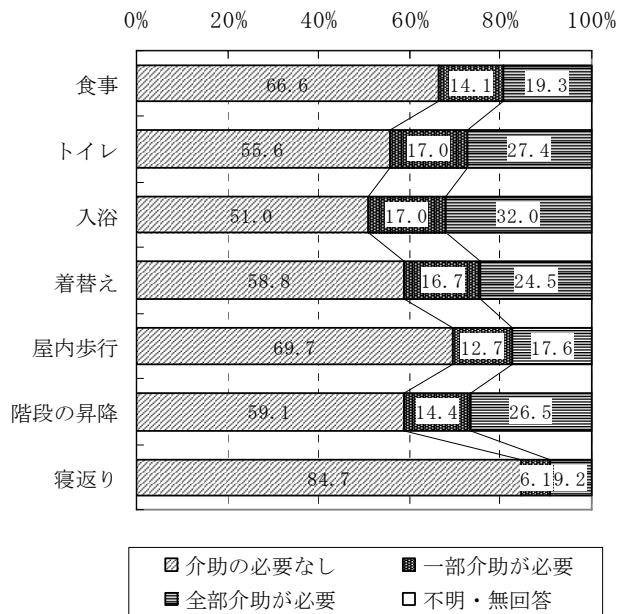
- ・ 6歳以上の対象者について、日常生活動作（IADL）の中で「何らかの介助が必要」（一部介助が必要＋全部介助が必要）とする子ども（6歳以上）の割合が高いものは、「入浴」で49.0%、次いで、「トイレ」が44.4%、「着替え」が41.2%、「階段の昇降」が40.9%、「食事」が33.4%、「屋内歩行」が30.3%、「寝返り」が15.3%と続いている。
- ・ 経年的には、「寝返り」を除く日常生活動作において、前回調査と比べて介助が必要な人の比率が増加する傾向が見られる。
- ・ 障害の種類別に見ると、「肢体不自由」、「視覚障害」において、「入浴」、「トイレ」、「着替え」、「階段の昇降」「食事」などの介助の必要性が、「聴覚障害」、「内部障害」と比べて高くなっている。

問11 日常生活動作の状況（6歳以上）

（単位：%）

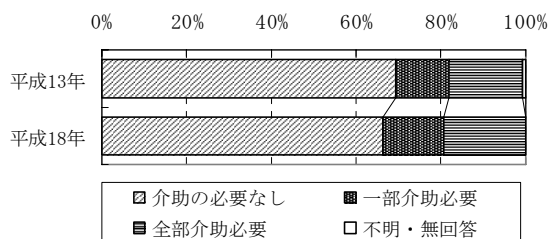
	食事		トイレ		入浴		着替え		屋内歩行		階段の昇降		寝返り	
介助の必要なし	66.6		55.6		51.0		58.8		69.7		59.1		84.7	
一部介助が必要	14.1	33.4	17.0	44.4	17.0	49.0	16.7	41.2	12.7	30.3	14.4	40.9	6.1	15.3
全部介助が必要	19.3		27.4		32.0		24.5		17.6		26.5		9.2	
不明・無回答	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0	
合計	100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0		100.0	
N	347		347		347		347		347		347		347	

第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果



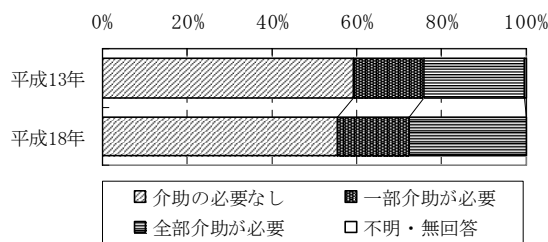
問11(1) 日常生活動作の状況（食事）：6歳以上  
(単位:%)

	平成13年	平成18年
介助の必要なし	69.3	66.6
一部介助が必要	12.6	14.1
全部介助が必要	17.4	19.3
不明・無回答	0.7	0.0
合計	100.0	100.0
N	420	347



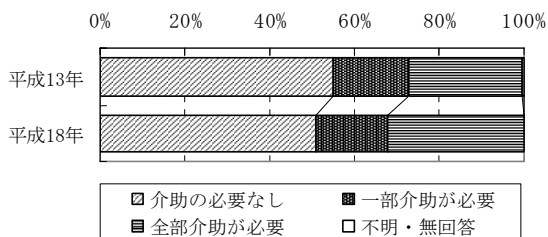
問11(2) 日常生活動作の状況（トイレ）：6歳以上  
(単位:%)

	平成13年	平成18年
介助の必要なし	59.3	55.6
一部介助が必要	16.4	17.0
全部介助が必要	23.8	27.4
不明・無回答	0.5	0.0
合計	100.0	100.0
N	420	347



問11(3) 日常生活動作の状況（入浴）：6歳以上  
(単位:%)

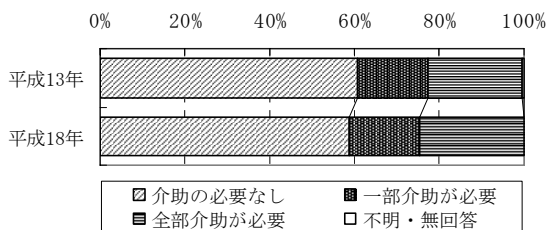
	平成13年	平成18年
介助の必要なし	55.0	51.0
一部介助が必要	17.9	17.0
全部介助が必要	26.7	32.0
不明・無回答	0.5	0.0
合計	100.0	100.0
N	420	347



第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果

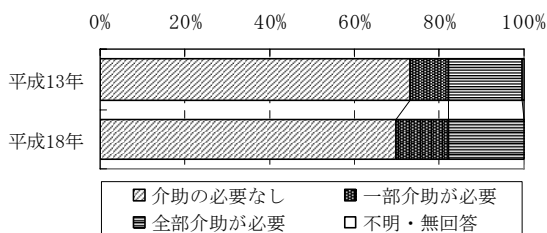
問11(4) 日常生活動作の状況（着替え）：6歳以上  
(単位:%)

	平成13年		平成18年	
介助の必要なし	60.7		58.8	
一部介助が必要	16.7	38.8	16.7	41.2
全部介助が必要	22.1		24.5	
不明・無回答	0.5		0.0	
合計	100.0		100.0	
N	420		347	



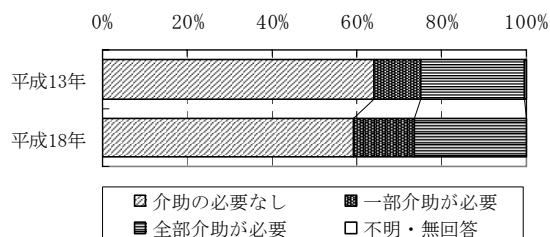
問11(5) 日常生活動作の状況（屋内歩行）：6歳以上  
(単位:%)

	平成13年		平成18年	
介助の必要なし	73.3		69.7	
一部介助が必要	9.0	26.1	12.7	30.3
全部介助が必要	17.1		17.6	
不明・無回答	0.5		0.0	
合計	100.0		100.0	
N	420		347	



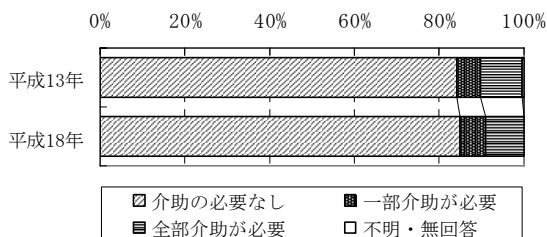
問11(6) 日常生活動作の状況（階段の昇降）：6歳以上  
(単位:%)

	平成13年		平成18年	
介助の必要なし	64.3		59.1	
一部介助が必要	11.0	35.3	14.4	40.9
全部介助が必要	24.3		26.5	
不明・無回答	0.5		0.0	
合計	100.0		100.0	
N	420		347	

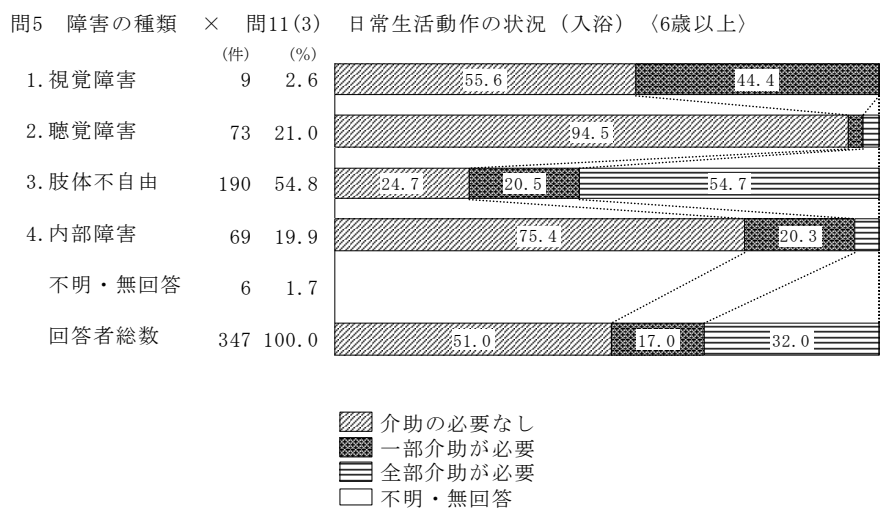
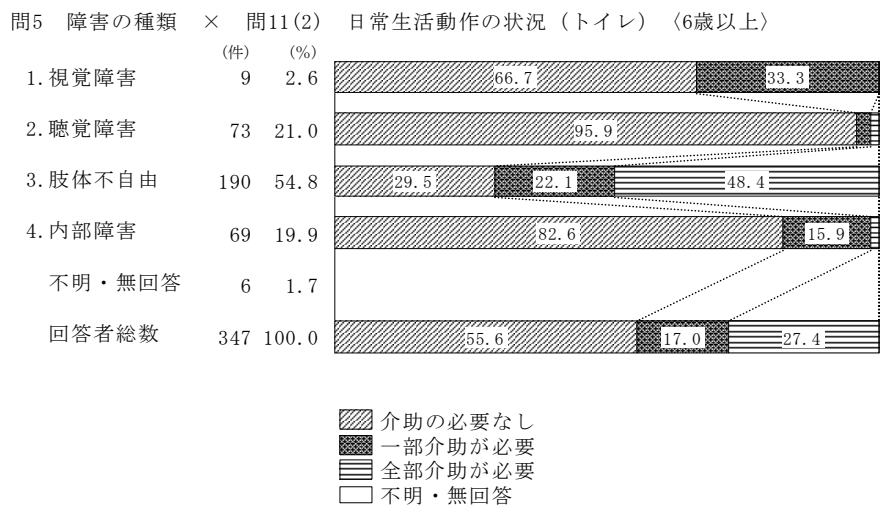
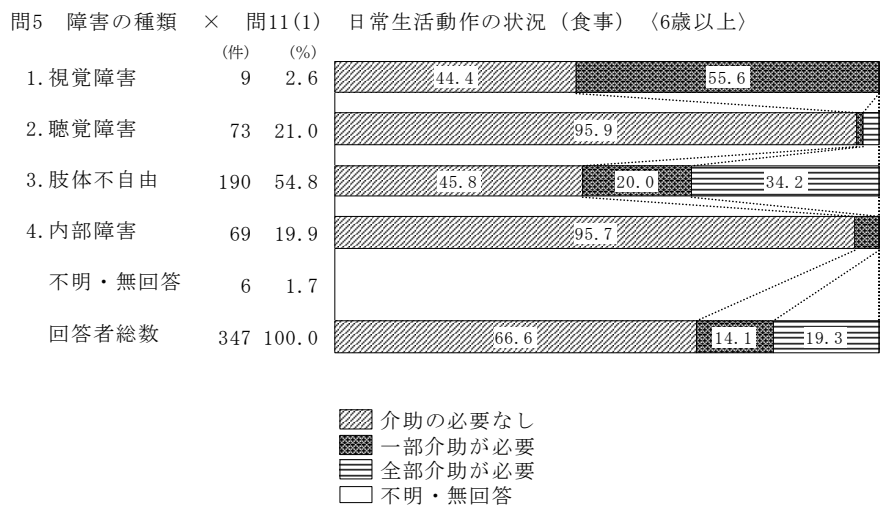


問11(7) 日常生活動作の状況（寝返り）：6歳以上  
(単位:%)

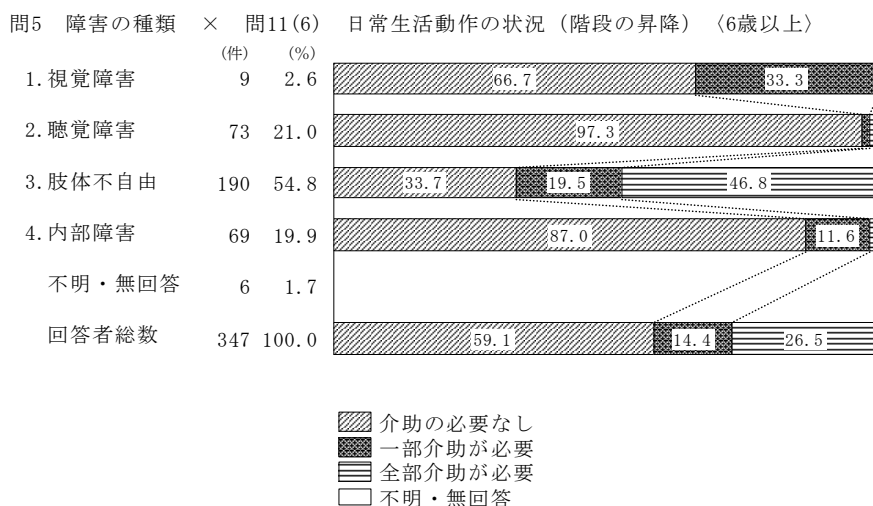
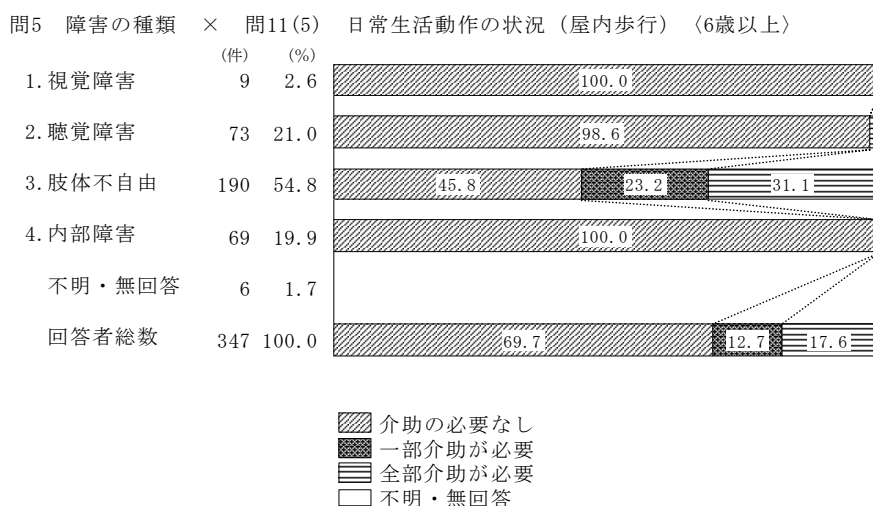
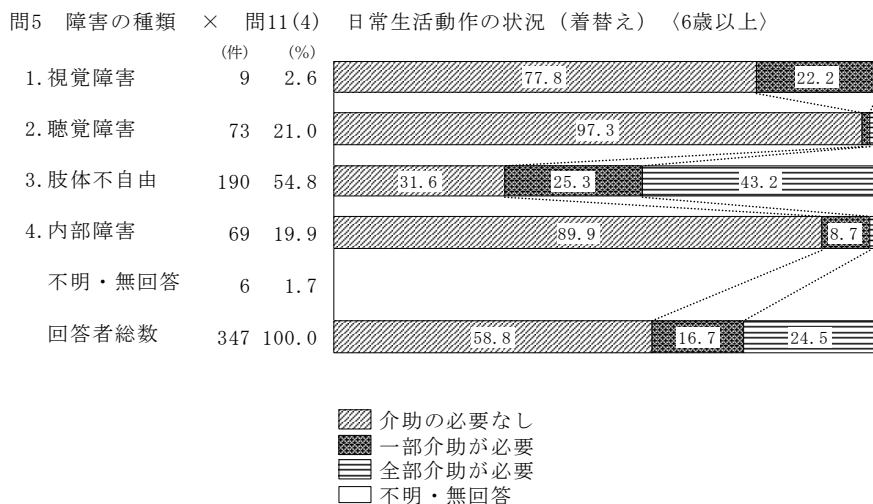
	平成13年		平成18年	
介助の必要なし	84.0		84.7	
一部介助が必要	5.7	15.5	6.1	15.3
全部介助が必要	9.8		9.2	
不明・無回答	0.5		0.0	
合計	100.0		100.0	
N	420		347	



第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果

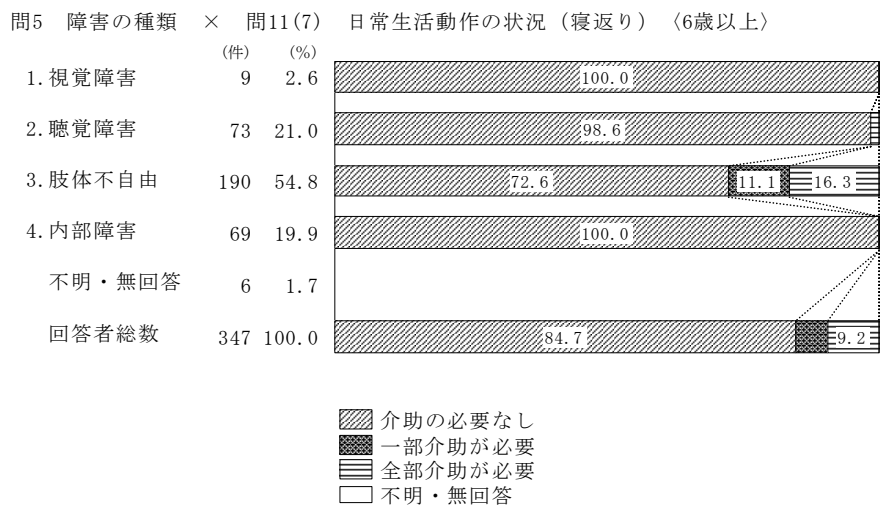


第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果





第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果



(2) 主な介助者の状況

7 主な介助者

問12-1 「問11」で1つでも「2. 一部介助が必要」「3. 全部介助が必要」とお答えの方) お子さんの主な介助者は、次のうちどなたですか。

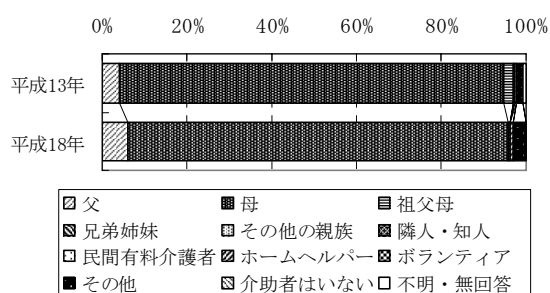
- ・ 今回調査では、「母」が89.9%で最も多く、次いで「父」が5.9%であり、「父母」の比率は95.8%に達している。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて大きな違いは見られない。

問12-1 主な介助者

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
父*	93.3	4.0	5.9
母*		90.5	89.9
祖父母	1.3	2.4	0.5
兄弟姉妹	0.3	0.0	0.0
その他の親族	0.0	0.3	0.0
隣人・知人	0.0	0.0	0.0
民間有料介護者	0.0	0.3	0.0
ホームヘルパー	0.0	0.0	0.5
ボランティア	-	0.0	0.0
その他	2.4	1.5	3.2
介助者はいない	1.0	0.0	0.0
不明・無回答	1.7	0.9	0.0
合計	100.0	100.0	100.0
N	297	327	188

\* 平成8年は「父母」



イ 主な介助者の年齢

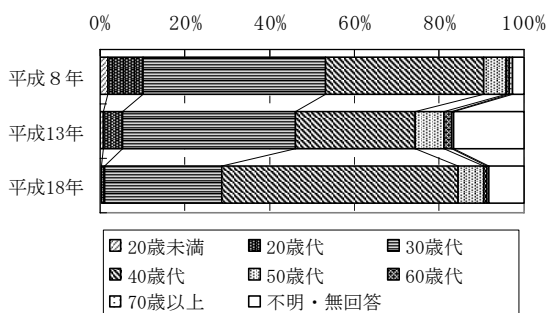
問12-2-1 「問12-1」で「1. 父」から「5. その他の親族」とお答えの方) お子さんの主な介助者の年齢は、おいくつですか。

- ・ 今回調査では、「40歳代」が55.8%、「30歳代」が27.6%となっており、この両者の年齢層で83.4%を占めている。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「30歳代」の比率が減少し、「40歳代」の比率が増加しており、介護者の年齢層が上昇している傾向が読み取れる。

問12-2-1 主な介助者の年齢

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
20歳未満	2.0	0.9	0.6
20歳代	8.1	4.4	0.6
30歳代	43.1	40.6	27.6
40歳代	37.4	28.3	55.8
50歳代	5.4	6.9	6.1
60歳代	0.7	1.9	0.6
70歳以上	0.7	0.3	0.6
不明・無回答	2.7	16.7	8.3
合計	100.0	100.0	100.0
N	297	318	181



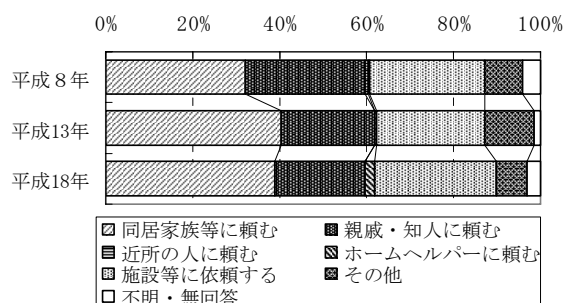
り 介助者がいない場合の対応

問12-3 「問11」で1つでも「2. 一部介助が必要」「3. 全部介助が必要」とお答えの方)あなたのご家庭では、お子さんの世話をなさっている方が万一急病、事故、出産などのため、一時的に世話ができなくなった場合、どうすることになっていますか。

- ・ 今回調査では、「同居家族等に頼む」が38.8%で最も多く、次いで「施設等に依頼する」が28.2%、「親戚・知人に頼む」が20.7%などと続いている。
- ・ 経年的には、前回調査と比較して「同居家族等に頼む」や「その他」の比率が減少しているが、その一方で「施設等に依頼する」や「ホームヘルパーに頼む」の比率が増加傾向にある。

問12-3 介助者がいない場合の対応

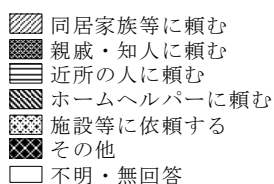
	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
同居家族等に頼む	32.0	40.4	38.8
親戚・知人に頼む	27.6	21.4	20.7
近所の人に頼む	0.7	0.0	0.0
ホームヘルパーに頼む	0.3	0.3	2.1
施設等に依頼する	26.6	25.1	28.2
その他	8.8	11.3	6.9
不明・無回答	4.0	1.5	3.2
合計	100.0	100.0	100.0
N	297	327	188



- ・ 障害の種類別で見ると、「視覚障害」と「聴覚障害」は該当者数が少ないが、「同居家族等に頼む」の比率が高くなっている。なお、「肢体不自由」では「同居家族等に頼む」と「施設等に依頼する」の比率が高くなっており、「内部障害」では「同居家族等に頼む」と「親戚・知人に頼む」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問12-3 介助者がいない場合の対応

障害の種類	(件)	(%)	同居家族等に頼む	親戚・知人に頼む	近所の人に頼む	ホームヘルパーに頼む	施設等に依頼する	その他	不明・無回答
1. 視覚障害	6	3.2	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2. 聴覚障害	5	2.7	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
3. 肢体不自由	155	82.4	36.1	19.4	0.0	0.0	31.6	7.1	0.0
4. 内部障害	20	10.6	45.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
不明・無回答	2	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答者総数	188	100.0	38.8	20.7	0.0	2.1	28.2	6.9	3.2

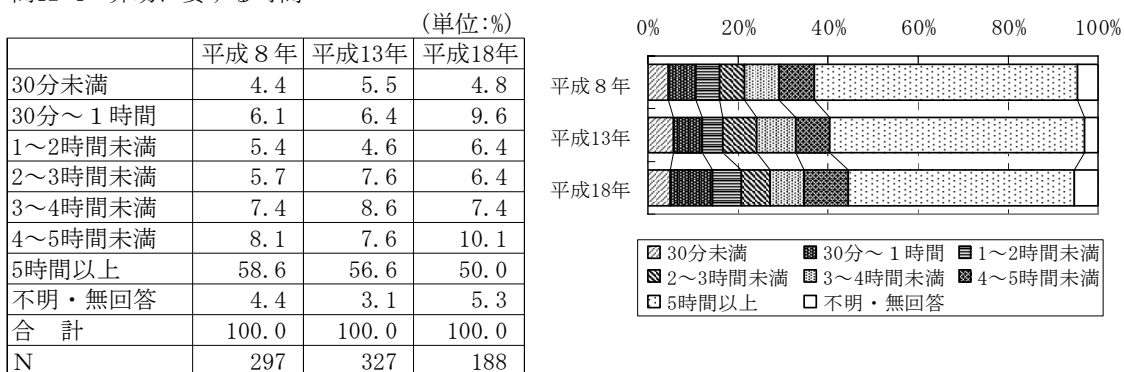


I 介助に要する時間

問12-4 「問11」で1つでも「2. 一部介助が必要」「3. 全部介助が必要」とお答えの方) お子さんのお世話をなさるのに必要な時間は、1日の延べ時間で、どのくらいになるでしょうか。

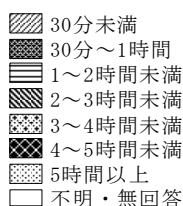
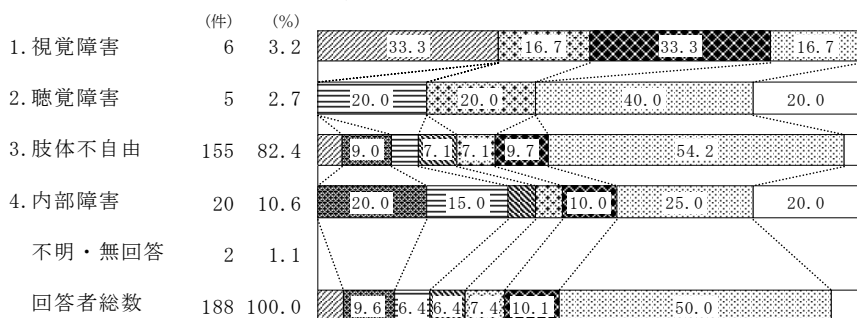
- ・ 今回調査では、「5時間以上」が50.0%で最も多い。次いで「4～5時間未満」が10.1%と続き、全体としては4時間以上が約6割を占めている。

問12-4 介助に要する時間



- ・ 障害の種類別に見ると、「視覚障害」は他の障害に比べて介助に要する時間が短くなっている。介助に要する時間が最も長いものは「肢体不自由」で、「5時間以上」の比率が54.2%と半数以上を占めている。

問5 障害の種類 × 問12-4 介助に要する時間



(3) 短期入所（ショートステイ）の利用状況

7 利用状況

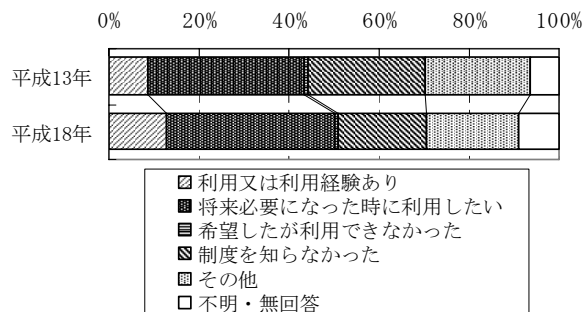
問13 短期入所（ショートステイ）の利用についておたずねします。あなたは短期入所（ショートステイ）を利用されたことがありますか。

- ・ 今回調査では、「利用又は利用経験あり」が 12.9%、「将来必要になった時に利用したい」が 37.3%、「制度を知らなかった」が 19.8%、「その他」が 20.3%などとなっている。「その他」の具体的内容としては、「必要がない」、「利用を考えたことがない」などの記述が多く見られた。

問13 短期入所（ショートステイ）の利用状況

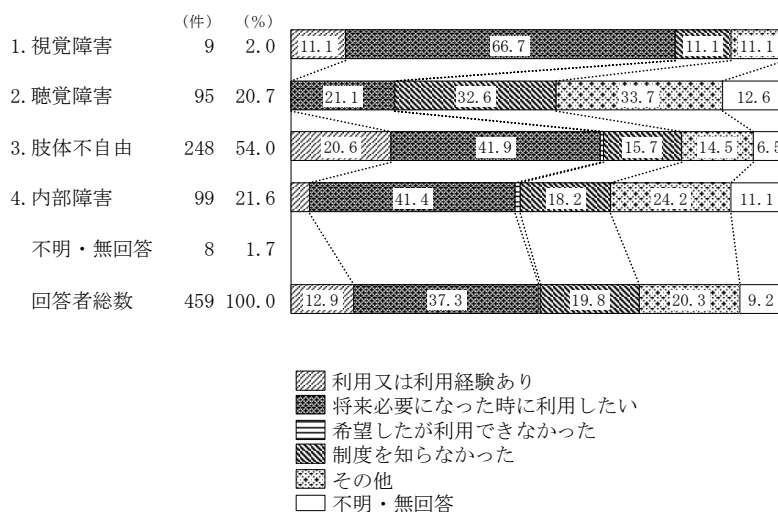
(単位:%)

	平成13年	平成18年
利用又は利用経験あり	8.5	12.9
将来必要になった時に利用したい	34.7	37.3
希望したが利用できなかった	0.8	0.7
制度を知らなかった	26.1	19.8
その他	23.4	20.3
不明・無回答	6.4	9.2
合計	100.0	100.0
N	590	459



- ・ 障害の種類別で見ると、「視覚障害」では「将来必要になった時に利用したい」が 66.7%で最も多く、「聴覚障害」では「その他」や「制度を知らなかった」の比率が高く、「肢体不自由」と「内部障害」では共に「将来必要になった時に利用したい」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問13 短期入所（ショートステイ）の利用状況



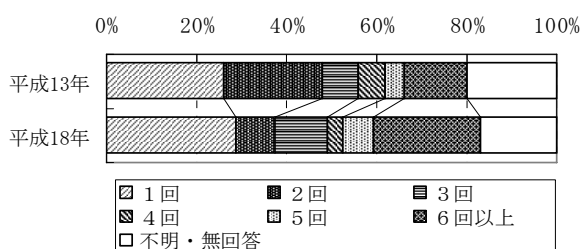
### イ 年間の利用回数

問14-1 「問13」で、短期入所（ショートステイ）を「1. 現在、利用している。または利用したことがある」とお答えの方 過去1年間にどの程度利用しましたか。

- ・ 今回調査では、「1回」が28.8%、「6回以上」が23.7%と続いており、利用回数が二極化している傾向が見られる。
- ・ 前回調査と比べて「2回」の比率が大幅に減少し、「6回以上」の比率が大幅に増加している。

問14-1 短期入所の年間の利用回数  
(単位:%)

	平成13年	平成18年
1回	26.0	28.8
2回	22.0	8.5
3回	8.0	11.9
4回	6.0	3.4
5回	4.0	6.8
6回以上	14.0	23.7
不明・無回答	20.0	16.9
合計	100.0	100.0
N	50	59



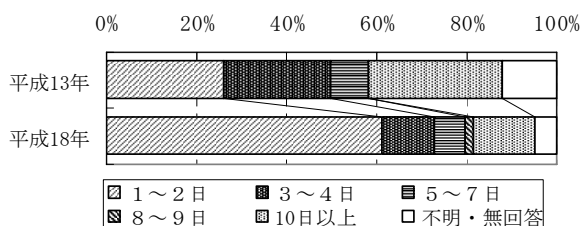
### ウ 利用平均日数

問14-2 「問13」で、短期入所（ショートステイ）を「1. 現在、利用している。または利用したことがある」とお答えの方 1回あたり平均して何日程度利用しましたか。

- ・ 今回調査では、「1～2日」が61.0%で最も多く、次いで「10日以上」が13.6%、「3～4日」が11.9%と続いている。
- ・ 前回調査と比較して「1～2日」の比率が大幅に増加する一方で、「3～4日」や「10日以上」の比率が減少しており、1回当たりの利用平均日数は短くなる傾向にある。

問14-2 短期入所の利用平均日数  
(単位:%)

	平成13年	平成18年
1～2日	26.0	61.0
3～4日	24.0	11.9
5～7日	8.0	6.8
8～9日	0.0	1.7
10日以上	30.0	13.6
不明・無回答	12.0	5.1
合計	100.0	100.0
N	50	59



(4) ホームヘルプサービス（居宅介護など）の利用状況

7 利用状況

問15 ホームヘルプサービス（居宅介護など）の利用についておたずねします。あなたはホームヘルプサービスを利用されたことがありますか。

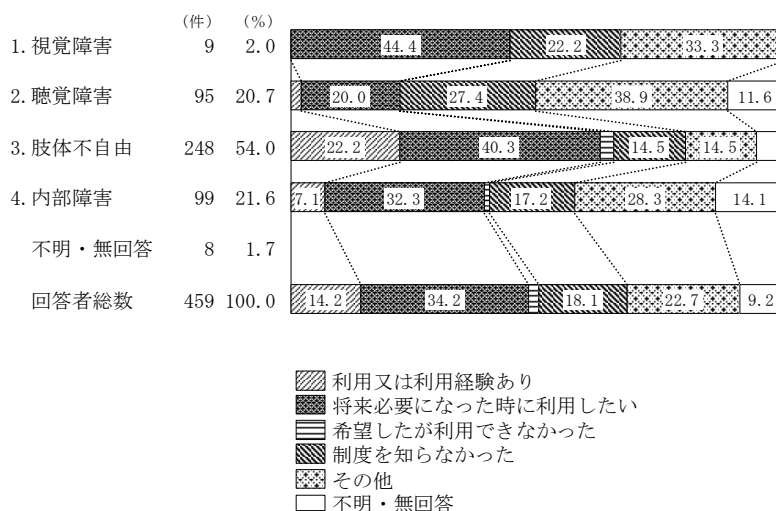
- ・ 今回調査では、「利用又は利用経験あり」が14.2%、「将来必要になった時に利用したい」が34.2%、「その他」が22.7%、「制度を知らなかった」が18.1%と続いている。
- ・ 経年的には、「利用又は利用経験あり」の比率が増加し、「将来必要になった時に利用したい」の比率が減少しており、利用が増加していることが分かる。

問15 ホームヘルプサービス（居宅介護など）の利用状況



- ・ 障害の種類別では、「視覚障害」、「肢体不自由」、「内部障害」では「将来必要になった時に利用したい」が最も多く、「聴覚障害」では「その他」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問15 ホームヘルプサービス（居宅介護など）の利用状況





イ ホームヘルパーに手伝ってほしいこと

問16-1 「問15」で、ホームヘルプサービスを「1. 現在、利用している。または利用したことがある」または「2. 将来、必要になった時に利用したい」とお答えの方）ホームヘルパーに手伝ってほしいことは何ですか。主なものを3つまでお答えください。

- ・ 今回調査では、「外出の介助」が77.9%で最も多く、次いで「入浴の介助」が50.9%となっており、この両者の比率が特に高くなっている。
- ・ 前回調査と比べて、「食事の介助」、「入浴の介助」、「家事の介助」、「外出の介助」などの比率が大きく増加している。

問16-1 ホームヘルパーに手伝ってほしいこと（3つ選択）  
(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
食事の介助	18.2	9.9	24.8
トイレの介助	18.2	8.7	16.7
入浴の介助	33.9	35.0	50.9
着替えの介助	2.1	2.3	5.9
家事の介助	-	17.9	23.0
外出の介助	54.1	47.5	77.9
話し相手*	19.8	15.6	-
介護者不在の時の世話*	85.1	69.6	-
不明・無回答	3.3	15.6	7.2
合計	234.7	222.1	206.3
N	242	263	222

\* 平成18年度は項目から削除

- ・ 障害の種類別に見ると、該当者が少ない「視覚障害」を除くと、「聴覚障害」では「外出の介助」が最も多く、「肢体不自由」では、「外出の介助」と「入浴の介助」の比率が、「内部障害」では「外出の介助」と「家事の介助」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問16-1 ホームヘルパーに手伝ってほしいこと（複数回答3）  
上段：実数（件）  
下段：横構成比（%）

問5 障害の種類	問16-1 ホームヘルパーに手伝ってほしいこと（複数回答3）							不明・無回答	回答者総数
	1. 食事の介助	2. トイレの介助	3. 入浴の介助	4. 着替えの介助	5. 家事の介助	6. 外出の介助			
1. 視覚障害	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0	4 100.0	
2. 聴覚障害	1 4.8	1 4.8	2 9.5	0 0.0	5 23.8	16 76.2	4 19.0	21 100.0	
3. 肢体不自由	48 31.0	31 20.0	100 64.5	12 7.7	29 18.7	126 81.3	4 2.6	155 100.0	
4. 内部障害	4 10.3	5 12.8	9 23.1	1 2.6	15 38.5	25 64.1	7 17.9	39 100.0	
不明・無回答	2 66.7	0 0.0	2 66.7	0 0.0	2 66.7	3 100.0	0 0.0	3 100.0	
回答者総数	55 24.8	37 16.7	113 50.9	13 5.9	51 23.0	173 77.9	16 7.2	222 100.0	

ウ ホームヘルパーの利用希望時間帯等

問16-2 「問15」で、ホームヘルプサービスを「1. 現在、利用している。または利用したことがある」または「2. 将来、必要になった時に利用したい」とお答えの方) ホームヘルパーを特にどのように利用したいですか。主なものを1つお答えください。

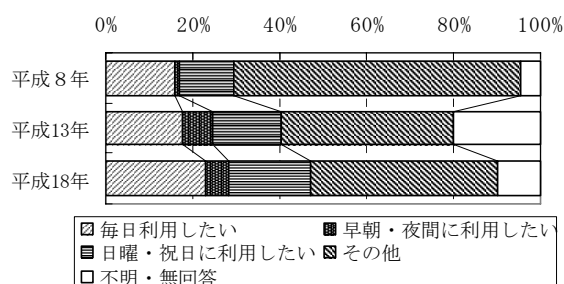
- ・ 今回調査では、「その他」が 42.8%と最も多く、次いで「毎日利用したい」が 23.0%、「日曜・祝日に利用したい」が 18.9%と続いている。「その他」の具体的内容としては、「必要なとき」、「家族で介護できないとき」、「体調の悪いとき」などの記述が見られた。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「毎日利用したい」や「日曜・祝日に利用したい」の比率が増加傾向にある。

問16-2 ホームヘルパーの利用希望時間帯等

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
毎日利用したい	15.7	17.9	23.0
早朝・夜間に利用したい	1.2	6.5	5.4
日曜・祝日に利用したい	12.4	16.0	18.9
その他*	66.1	39.5	42.8
不明・無回答	4.5	20.2	9.9
合計	100.0	100.0	100.0
N	242	263	222

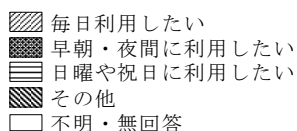
\* 平成8年は「特になし」12.0%と「わからない」25.2%を含む



- ・ 障害の種類別では、いずれの障害においても「その他」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問16-2 ホームヘルパーの利用希望時間帯等

障害の種類	(件)	(%)	毎日利用したい	早朝・夜間に利用したい	日曜や祝日に利用したい	その他	不明・無回答
1. 視覚障害	4	1.8	25.0	50.0	25.0		
2. 聴覚障害	21	9.5	19.0	14.3	42.9	23.8	
3. 肢体不自由	155	69.8	27.1	18.7	43.9		
4. 内部障害	39	17.6	10.3	10.3	23.1	38.5	17.9
不明・無回答	3	1.4					
回答者総数	222	100.0	23.0	18.9	42.8	9.9	



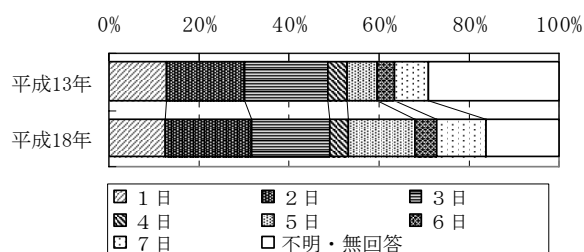
Ⅰ ホームヘルパーの1週間当たりの利用希望日数

問16-3 「問15」で、ホームヘルプサービスを「1. 現在、利用している。または利用したことがある」または「2. 将来、必要になった時に利用したい」とお答えの方) ホームヘルパーを1週間のうち何日利用したいですか。

- ・ 今回調査では、「2日」が18.9%で最も多く、次いで「3日」の17.6%、「5日」の14.9%などと続いている。
- ・ 前回調査と比べて「5日」や「7日」の比率が増加している。

問16-3 ホームヘルパーの1週間当たりの利用希望日数 (単位:%)

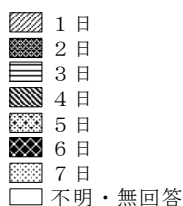
	平成13年	平成18年
1日	12.9	12.6
2日	17.1	18.9
3日	18.6	17.6
4日	4.2	4.1
5日	6.8	14.9
6日	3.8	5.0
7日	7.6	10.8
不明・無回答	28.9	16.2
合計	100.0	100.0
N	263	222



- ・ 障害の種類別に見ると、「視覚障害」や「聴覚障害」では「不明・無回答」の比率が多くなっているが、「肢体不自由」では「2日」、「3日」などの比率が高い。

問5 障害の種類 × 問16-3 ホームヘルパーの1週間当たりの利用希望日数

障害の種類	件数	割合 (%)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	不明・無回答
1. 視覚障害	4	1.8							25.0	75.0
2. 聴覚障害	21	9.5	14.3	9.5	9.5	9.5				47.6
3. 肢体不自由	155	69.8	11.6	22.6	20.6	17.4	11.6	8.4		
4. 内部障害	39	17.6	17.9	12.8	12.8	12.8	7.7	7.7		25.6
不明・無回答	3	1.4								
回答者総数	222	100.0	12.6	18.9	17.6	14.9	10.8			16.2



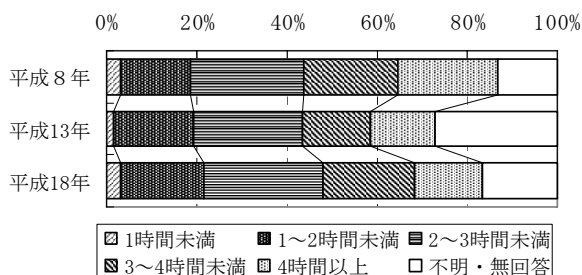
### オ ホームヘルパーの利用希望時間数

問16-4 「問15」で、ホームヘルプサービスを「1. 現在、利用している。または利用したことがある」または「2. 将来、必要になった時に利用したい」とお答えの方) ホームヘルパーを1日に何時間利用したいですか。

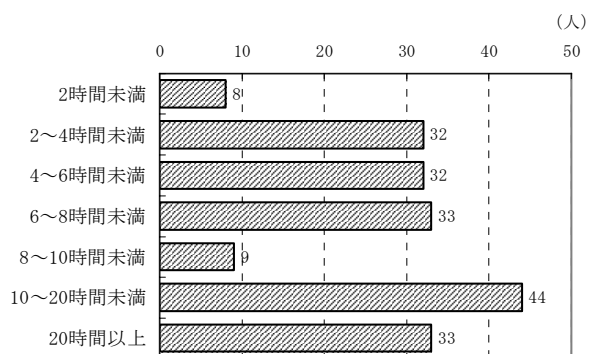
- ・ 今回調査では、「2～3時間未満」が26.1%で最も多く、次いで「3～4時間未満」が20.7%、「1～2時間未満」が18.5%となっている。
- ・ 前回調査と比べて、「2～3時間未満」と「3～4時間未満」などの比率が増加している。
- ・ 1週間当たりの利用希望延べ時間分布を見ると、「10～20時間未満」が44人と最も多くなっている。

問16-4 ホームヘルパーの利用希望時間数

	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
1時間未満	2.9	1.5	3.2
1～2時間未満	15.7	17.9	18.5
2～3時間未満	25.2	24.0	26.1
3～4時間未満	20.7	15.2	20.7
4時間以上	22.3	14.4	14.9
不明・無回答	13.2	27.0	16.7
合計	100.0	100.0	100.0
N	242	263	222



ホームヘルパーの利用希望延べ時間分布（週当たり）



\* 算出方法：各個人のデータから、利用希望時間数(1日)×利用希望日数を積み上げたもの

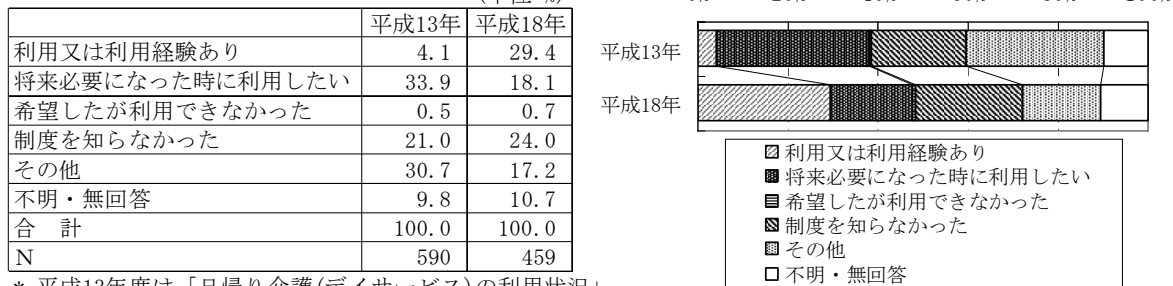
(5) 児童デイサービス（通園施設を含む）の利用状況

7 利用状況

問17 児童デイサービス（通園施設を含む）の利用についておたずねします。あなたは児童デイサービスを利用したことがありますか。

- ・ 今回調査では、「利用又は利用経験あり」が29.4%で最も多く、次いで「制度を知らなかった」が24.0%、「将来必要になった時に利用したい」が18.1%などと続いている。
- ・ 経年的には、前回調査と比較して「利用又は利用経験あり」の比率が大幅に増加し、「将来必要になった時に利用したい」の比率が減少しており、制度利用が進んでいる状況がうかがえる。

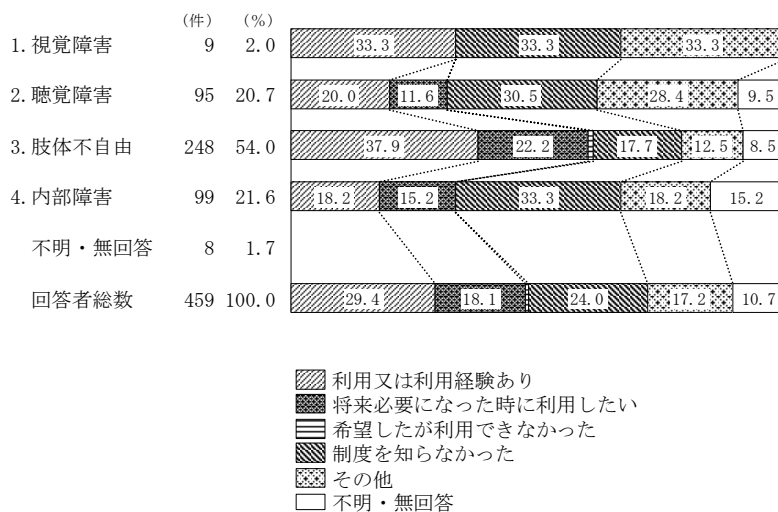
問17 児童デイサービス（通園施設を含む）の利用状況\*  
(単位:%)



\* 平成13年度は「日帰り介護(デイサービス)の利用状況」

- ・ 障害の種類別に見ると、「視覚障害」と「肢体不自由」で「利用又は利用経験あり」の比率が高くなっているのが特徴的である。

問5 障害の種類 × 問17 児童デイサービス（通園施設を含む）の利用状況



## イ 利用回数

問18-1 「問17」で、児童デイサービスを「1. 現在、利用している。または利用したことがある」とお答えの方)どの程度利用していますか。

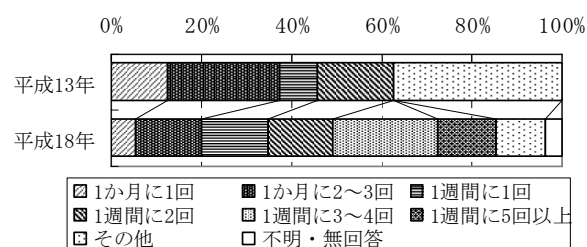
- ・ 今回調査では、「1週間に3～4回」が23.7%で最も多く、次いで「1か月に2～3回」と「1週間に1回」が14.8%、「1週間に2回」が14.1%などと続いている。
- ・ 経年的には、前回調査と比較して、「1週間に3～4回」や「1週間に5回以上」などの比率が増加しており、逆に「1か月に1回」や「1か月に2～3回」の比率が減少するなど、利用回数は増加している状況がうかがえる。

問18-1 児童デイサービスの利用回数

(単位:%)

	平成13年	平成18年
1か月に1回	12.5	5.2
1か月に2～3回	25.0	14.8
1週間に1回	8.3	14.8
1週間に2回	16.7	14.1
1週間に3～4回	0.0	23.7
1週間に5回以上	0.0	12.6
その他	37.5	11.1
不明・無回答	0.0	3.7
合計	100.0	100.0
N	24	135

\* 平成13年度は「日帰り介護(デイサービス)の利用回数」



## 4. 外出の状況

### (1) 外出回数

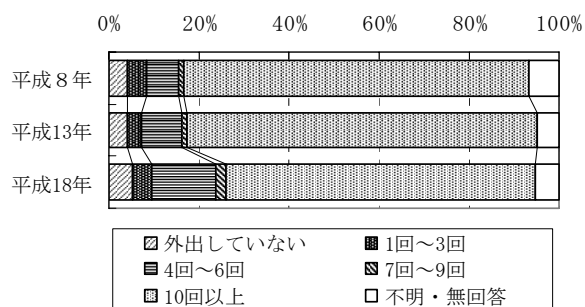
**問19 お子さんは普通1か月に何回ぐらい外出されますか。**  
**(1) 仕事・通学の場合、(2)仕事・通学以外の場合、に分けてお答えください。**

- ・ 仕事・通学の場合については、“月に10回以上”が68.6%で最も多く、次いで“月に4回～6回”が14.4%と続いている。
- ・ 仕事・通学以外の場合については、“月に10回以上”が45.3%で最も多く、次いで“月に1回～3回”が22.0%，“月に7回～9回”が12.4%，“月に4回～6回”が12.0%と続いております、仕事・通学の場合と比べて外出頻度はばらついている。

問19(1) 外出回数（仕事・通学の場合）

(単位:%)

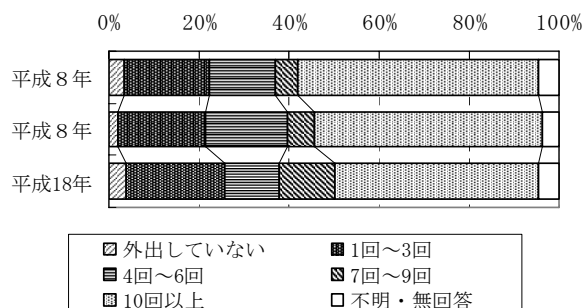
	平成8年	平成13年	平成18年
外出していない	4.1	4.2	5.2
1回～3回	4.2	3.1	4.1
4回～6回	7.3	8.8	14.4
7回～9回	0.9	1.2	2.2
10回以上	76.6	77.8	68.6
不明・無回答	6.9	4.9	5.4
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



問19(2) 外出回数（仕事・通学以外の場合）

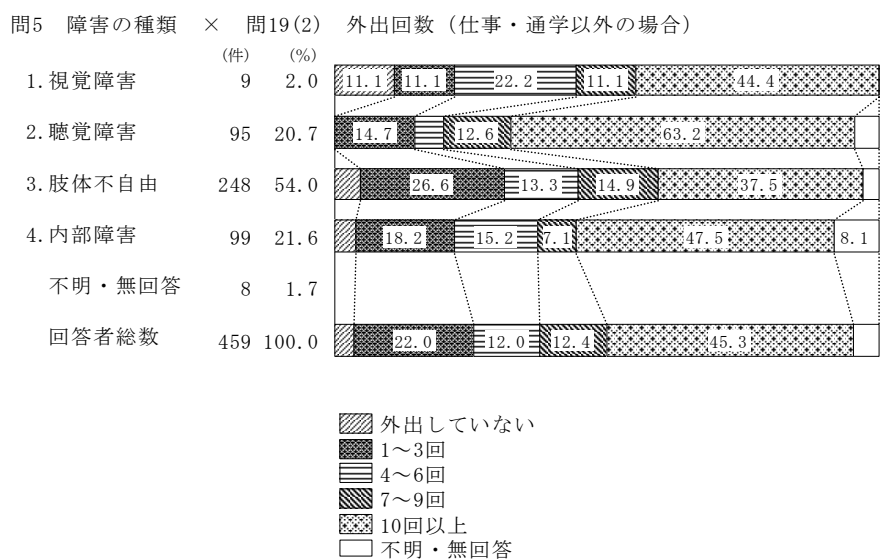
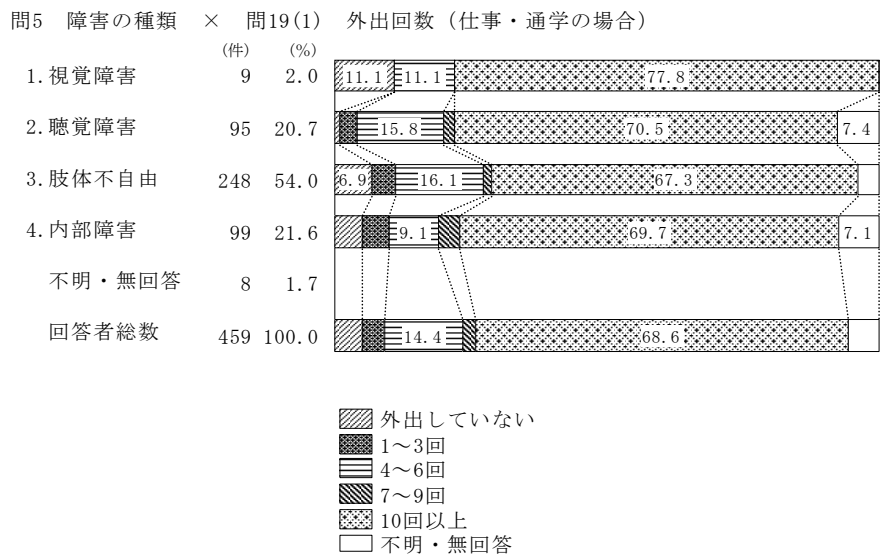
(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
外出していない	3.4	1.7	3.7
1回～3回	18.8	19.8	22.0
4回～6回	15.0	18.3	12.0
7回～9回	4.8	5.9	12.4
10回以上	53.5	50.5	45.3
不明・無回答	4.6	3.8	4.6
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



- ・ 障害の種類別に、仕事・通学の場合を見ると、「視覚障害」で“月に10回以上”の比率が他の障害に比べて高くなっている。仕事・通学以外の場合では、「聴覚障害」において“月に10回以上”の比率が高くなっている。

第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果





(2) 仕事・通学以外の外出の目的

問20-1 「問19」で「仕事・通学以外で外出した」とお答えの方) その場合、外出の目的は何でしたか。主なものを3つまでお答えください。

- ・ 今回調査では、「買物」が85.3%で最も多く、次いで「通院」の54.9%、「知人宅訪問」が47.3%、「レクリエーション」が28.0%などと続いており、外出の主要目的は「買物」と「通院」であることが分かる。
- ・ 経年的に見ても、「買物」と「通院」が主要な目的であることに変わりはない。

問20-1 仕事・通学以外の外出の目的〈複数回答3〉

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
買物	80.8	84.4	85.3
知人宅訪問	47.7	44.3	47.3
レクリエーション	37.3	30.5	28.0
障害者団体の活動	5.0	3.2	1.9
ボランティア活動	1.2	1.4	1.2
町内会・自治会活動	2.5	3.0	1.9
スポーツ活動	12.3	14.0	16.9
博物館見学や教養講座参加	6.0	5.9	4.3
通院	46.7	52.7	54.9
施設の利用	8.5	8.4	10.5
その他	15.8	17.0	16.6
不明・無回答	4.2	1.6	1.2
合計	267.9	266.5	269.8
N	520	558	421

(3) 外出の際の問題点

問21 お子さんが外出される時、どのようなことにお困りですか。主なものを3つまでお答えください。

- ・ 「道路や駅に階段や段差が多い」が49.5%で最も多く、次いで「利用する建物の設備の不備」が42.0%、「車などに危険を感じる」が34.0%などと続いている。
- ・ 経年的には、どの年度においても「道路や駅に階段や段差が多い」、「利用する建物の設備の不備」、「車などに危険を感じる」、「道路に自転車などの障害物が多い」の各項目の比率が高くなっている。

問21 外出の際の問題点（複数回答3）

（単位：%）

	平成8年	平成13年	平成18年
道路や駅に階段や段差が多い	42.1	45.6	49.5
音の信号機が少ない	3.0	3.2	2.0
点字ブロックの敷設がない	0.4	0.5	0.2
利用できる交通機関が少ない	16.3	14.2	15.0
車などに危険を感じる	31.0	35.4	34.0
道路に自転車などの障害物が多い	29.6	29.0	28.3
利用する建物の設備の不備	33.1	36.1	42.0
介助者がいない	10.1	9.3	12.2
その他*	32.2	16.8	18.5
不明・無回答	7.3	14.2	12.2
合計	205.0	204.4	213.9
N	565	590	459

\* 平成8年度は「困ることはない」20.9%を含む。

- ・ 障害の種類別に見ると、「視覚障害」においては「階段や段差が多い」、「車などに危険を感じる」、「道路に自転車などの障害物が多い」の比率が高く、「聴覚障害」では「車などに危険を感じる」の比率が高く、「肢体不自由」では「階段や段差が多い」、「利用する建物の設備の不備」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問21 外出の際の問題点（複数回答3）

上段：実数（件）  
下段：構成比（%）

問5 障害の種類	問21 外出の際の問題点（複数回答3）	問21 外出の際の問題点（複数回答3）											回答者総数
		1. 階段や段差が多い	2. 音の信号機が少ない	3. 点字ブロックの敷設がない	4. 利用できる交通機関が少ない	5. 車などに危険を感じる	6. 道路に自転車などの障害物が多い	7. 利用する建物の設備の不備	8. 介助者がいない	9. その他	不明	無回答	
1. 視覚障害	7 77.8	3 33.3	1 11.1	0 0.0	7 77.8	7 77.8	1 11.1	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 100.0
2. 聴覚障害	10 10.5	5 5.3	0 0.0	4 4.2	60 63.2	22 23.2	14 14.7	24 25.3	23 24.2	13 13.7	0 0.0	95 100.0	
3. 肢体不自由	174 70.2	0 0.0	0 0.0	53 21.4	57 23.0	78 31.5	147 59.3	26 10.5	41 16.5	19 7.7	248 100.0		
4. 内部障害	34 34.3	1 1.0	0 0.0	11 11.1	31 31.3	21 21.2	29 29.3	5 5.1	18 18.2	21 21.2	99 100.0		
不明・無回答	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	3 37.5	8 100.0		
回答者総数	227 49.5	9 2.0	1 0.2	69 15.0	156 34.0	130 28.3	193 42.0	56 12.2	85 18.5	56 12.2	459 100.0		

(4) 外出の際の利用交通機関

問22 お子さんが外出される時、主に利用される交通機関は何ですか。利用回数の多いものから2つまでお答えください。

- ・ 今回調査では、「自家用車」が70.2%で最も多く、次いで「市バス」が29.4%、「市営地下鉄」が23.1%、「タクシー」が22.0%と続いている。
- ・ 経年的には、「市営地下鉄」や「自家用車」の比率が増加傾向にある。

問22 外出の際の利用交通機関〈複数回答2〉

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
J R	6.7	8.1	5.9
私鉄	16.6	19.7	16.1
市営地下鉄	7.4	17.1	23.1
市バス	36.5	31.7	29.4
J R・民営バス	3.0	2.9	3.1
タクシー	26.0	22.0	22.0
自家用車	65.3	66.6	70.2
その他	12.7	7.6	9.6
不明・無回答	4.8	2.2	2.0
合計	179.1	178.0	181.3
N	565	590	459

- ・ 障害の種類別では、いずれの障害においても「自家用車」の比率が高くなっている。また、「視覚障害」では「市営地下鉄」の比率が、「聴覚障害」では「市バス」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問22 外出の際の利用交通機関〈複数回答2〉

上段：実数(件)  
下段：横構成比(%)

問5	問22 外出の際の利用交通機関〈複数回答2〉								不明・無回答	回答者総数	
	1. J R	2. 私鉄	3. 市営地下鉄	4. 市バス	5. J R・民営バス	6. タクシー	7. 自家用車	8. その他			
障害の種類	1. 視覚障害	3 33.3	2 22.2	4 44.4	2 22.2	0 0.0	1 11.1	6 66.7	0 0.0	0 0.0	9 100.0
	2. 聴覚障害	9 9.5	13 13.7	35 36.8	48 50.5	5 5.3	2 2.1	57 60.0	9 9.5	3 3.2	95 100.0
	3. 肢体不自由	10 4.0	40 16.1	50 20.2	45 18.1	4 1.6	77 31.0	187 75.4	21 8.5	3 1.2	248 100.0
	4. 内部障害	4 4.0	17 17.2	17 17.2	39 39.4	5 5.1	20 20.2	66 66.7	13 13.1	2 2.0	99 100.0
	不明・無回答	1 12.5	2 25.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	6 75.0	1 12.5	1 12.5	8 100.0
	回答者総数	27 5.9	74 16.1	106 23.1	135 29.4	14 3.1	101 22.0	322 70.2	44 9.6	9 2.0	459 100.0

## 5. 教育の状況

### (1) 就学前教育等の状況

問23-1（学齢前（0～6歳未満）のお子さんがいるご家庭の方）おさんは、現在、日中どのように過ごしておられますか。2つまでお答えください。（ただし、保育所などから通園施設にかよっている方は、両方を記入してください。）

- ・ 今回調査では、「通園施設」が49.5%で最も多く、次いで「保育所」が27.5%、「自宅にいる」が18.3%と続いている。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「通園施設」の比率が増加傾向にあり、「保育所」や「その他」の比率が減少傾向にある。「その他」の具体的内容としては、「ろう学校幼稚部」、「病院のリハビリ」などの記述が見られた。

問23-1 就学前教育等の状況（複数回答2）

（単位：%）

	平成8年	平成13年	平成18年
保育所	29.3	37.4	27.5
幼稚園	13.0	7.9	9.2
通園施設	38.2	46.8	49.5
総合療育事業*	-	-	8.3
その他	18.7	19.4	9.2
自宅にいる	21.1	13.7	18.3
不明・無回答	3.3	1.4	2.8
合計	123.6	125.0	124.8
N	123	139	109

\* 平成18年追加項目

- ・ 障害の種類別に見ると、「聴覚障害」と「肢体不自由」において、「通園施設」の比率が特に高くなっているが、「内部障害」の場合、複数の項目に分散している。

問5 障害の種類 × 問23-1 就学前教育等の状況（複数回答2）

上段：実数（件）  
下段：構成比（%）

問5	問23-1 就学前教育等の状況（複数回答2）							回答者総数	
	1. 保育所	2. 幼稚園	3. 通園施設	4. 総合療育事業	5. その他	6. 自宅にいる	不明・無回答		
障害の種類	1. 視覚障害	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	2. 聴覚障害	4 18.2	1 4.5	13 59.1	4 18.2	3 13.6	3 13.6	1 4.5	22 100.0
	3. 肢体不自由	16 28.6	4 7.1	33 58.9	3 5.4	3 5.4	7 12.5	0 0.0	56 100.0
	4. 内部障害	9 31.0	5 17.2	8 27.6	2 6.9	4 13.8	10 34.5	1 3.4	29 100.0
	不明・無回答	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0
	回答者総数	30 27.5	10 9.2	54 49.5	9 8.3	10 9.2	20 18.3	3 2.8	109 100.0

(2) 就学している学校

問24-1 （現在、就学されているお子さんがいるご家庭の方）現在、就学されている学校は、次のうちどれにあたりますか。

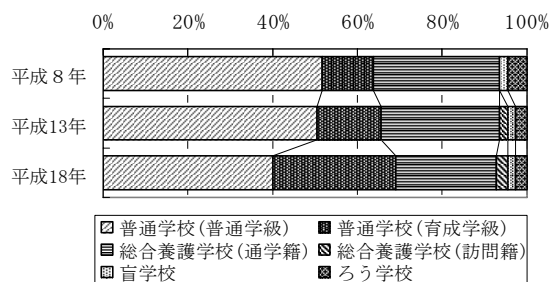
- ・ 「小学校（部）」では、比率の高いものから「普通学校（普通学級）」、「普通学校（育成学級）」、「総合支援学校（通学籍）」などの順になっている。「中学校（部）」では、「普通学校（普通学級）」、「総合支援学校（通学籍）」、「普通学校（育成学級）」の順である。また「高等学校（高等部）」では、「普通学校」,「総合支援学校（通学籍）」の順となっている。（総合養護学校は、平成19年4月から、総合支援学校に改称）
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「小学校（部）」では、「普通学校（普通学級）」の比率が減少し、「普通学校（育成学級）」の比率が増加する傾向が見られる。また、「中学校（部）」では、「普通学校（普通学級）」の比率が増加し、さらに、「高等学校（高等部）」でも「普通学校」の比率が増加している。

問24-1 就学している学校  
（小学校（部））

	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
普通学校（普通学級）	51.7	50.5	40.1
普通学校（育成学級）	11.9	15.2	28.8
総合養護学校（通学籍）*1	29.9	27.8	23.7
総合養護学校（訪問籍）*2	0.0	2.0	2.8
盲学校	2.0	2.0	1.7
ろう学校	4.5	2.5	2.8
合計	100.0	100.0	100.0
N	201	198	177

\*1 平成18年以外は「養護学校」

\*2 平成18年以外は「訪問教育」

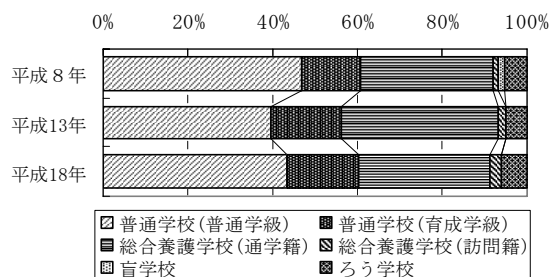


問24-1 就学している学校  
（中学校（部））

	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
普通学校（普通学級）	47.0	39.8	43.2
普通学校（育成学級）	13.9	16.5	17.3
総合養護学校（通学籍）*1	31.3	36.9	30.9
総合養護学校（訪問籍）*2	0.9	1.9	2.5
盲学校	1.7	0.0	0.0
ろう学校	5.2	4.9	6.2
合計	100.0	100.0	100.0
N	115	103	81

\*1 平成18年以外は「養護学校」

\*2 平成18年以外は「訪問教育」

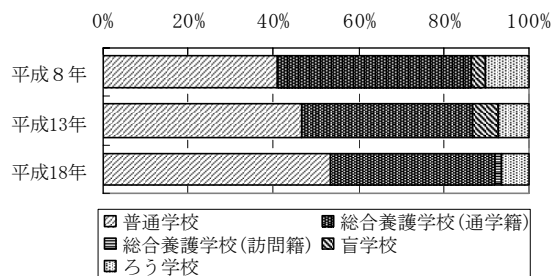


第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果

問24-1 就学している学校  
(高等学校(高等部))

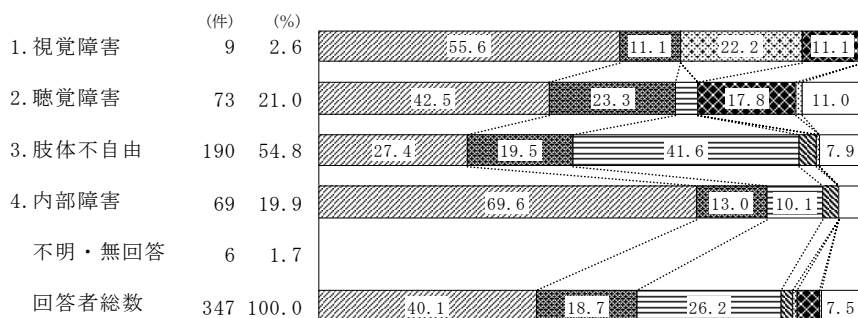
	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
普通学校	40.9	46.4	53.2
総合養護学校(通学籍)*	45.5	40.5	38.7
総合養護学校(訪問籍)*			1.6
盲学校	3.4	6.0	0.0
ろう学校	10.2	7.1	6.5
合計	100.0	100.0	100.0
N	88	84	62

\* 平成18年以外は「養護学校」



- ・ 障害の種類別（全学年通しの比率）では、「視覚障害」、「聴覚障害」、「内部障害」においては「普通学校（普通学級）」の比率が最も高いが、「肢体不自由」では「総合養護学校（通学籍）」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問24-1 就学している学校



- 普通学校（普通学級）
- 普通学校（育成学級）
- 総合養護学校（通学籍）
- 総合養護学校（訪問籍）
- 盲学校
- ろう学校
- その他
- 不明・無回答

(3) 学校（高等部）卒業後の進路希望

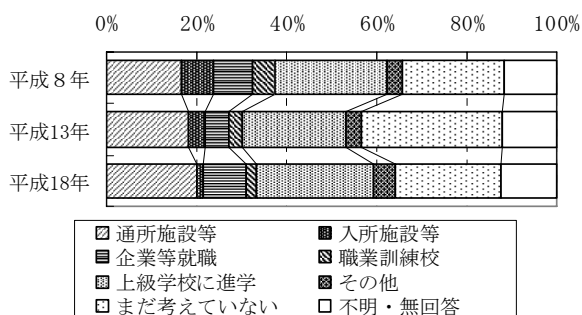
問24-2 （現在、就学されているお子さんがいるご家庭の方）学校（高等部）卒業後の進路希望についてお答えください。

- ・ 今回調査では、「上級学校に進学」が26.2%で最も多く、次いで「まだ考えていない」が23.3%、「通所施設等」が20.2%と続いている。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「上級学校に進学」や「通所施設等」の比率が増加傾向にある。その一方で「まだ考えていない」の比率は低下している。

問24-2 学校（高等部）卒業後の進路希望

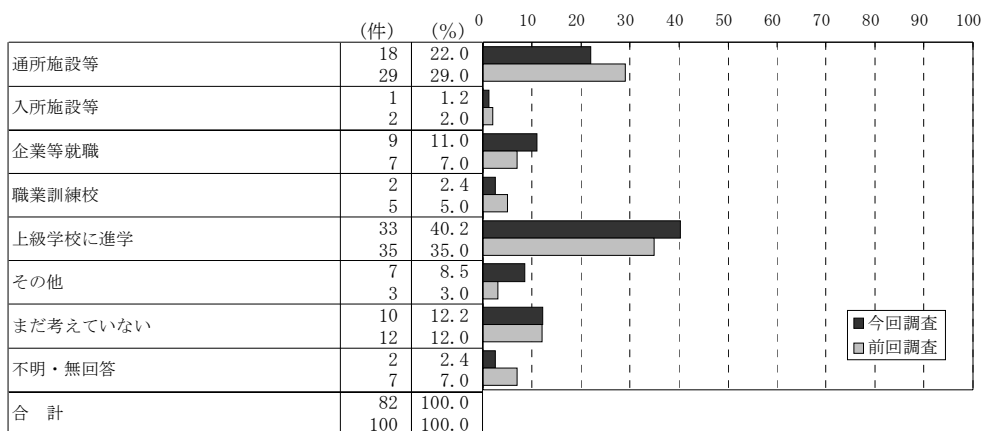
(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
通所施設等	16.6	18.1	20.2
入所施設等	7.2	3.8	1.2
企業等就職	8.5	5.2	9.5
職業訓練校	4.8	2.9	2.3
上級学校に進学	24.9	23.3	26.2
その他	3.7	3.3	4.9
まだ考えていない	22.6	31.4	23.3
不明・無回答	11.5	11.9	12.4
合計	100.0	100.0	100.0
N	433	420	347



- ・ 進路希望が定まると考えられる15～17歳で集計すると、「上級学校に進学」が40.2%、「通所施設等」が22.0%となっている。
- ・ 経年的には、「通所施設等」の比率が減少し、「上級学校に進学」や「企業等就職」の比率が増加傾向にある。

問24-2 学校（高等部）卒業後の進路希望（15～17歳で集計）



## 6. 健康・医療などの状況

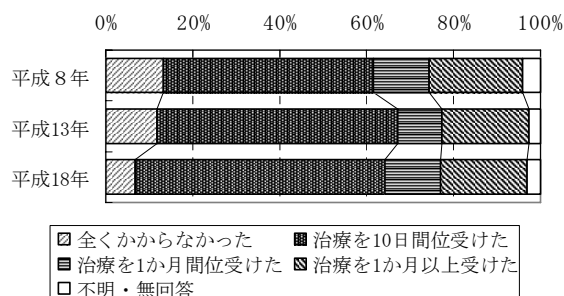
### (1) 過去1年間の治療の状況

問25 お子さんは、過去1年間に、病気（かぜ・腹痛・歯痛などの一時的な病気を含む）のために医療機関で治療を受けられたことがありますか。

- ・ 今回調査では、「治療を10日間位受けた」が57.3%で最も多く、次いで「治療を1か月以上受けた」が20.0%などとなっている。「治療を受けた」人は、90.4%と約9割を占めている。
- ・ 経年的には、前回調査と比較して「全くかからなかった」の比率が低下傾向にある。

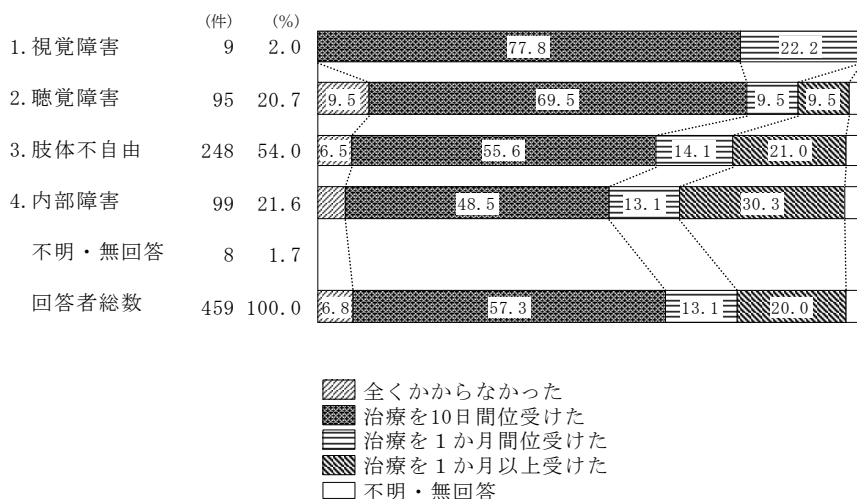
問25 過去1年間の治療の状況

	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
全くかからなかった	13.1	11.7	6.8
治療を10日間位受けた	48.5	55.4	57.3
治療を1か月間位受けた	12.7	10.2	13.1
治療を1か月以上受けた	21.6	20.0	20.0
不明・無回答	4.1	2.7	2.8
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



- ・ 該当者が少ない「視覚障害」以外の障害を種類別に見ると、「聴覚障害」、「肢体不自由」、「内部障害」の順に「治療を1か月以上受けた」の比率は増加しており、逆に「治療を10日間位受けた」の比率が減少している。

問5 障害の種類 × 問25 過去1年間の治療の状況





(2) 慢性的な病気の状況

問26 お子さんは現在、次の慢性的な病気にかかっておられますか。主なものを2つまでお答えください。

- ・ 今回調査では、「かかっていない」が30.7%で最も多く、次いで「てんかん」が20.3%、「心臓疾患」が19.4%、「その他」が18.1%と続いている。「その他」の具体的内容としては、「水頭症」、「ぜんそく」、「アレルギー」、「脳性マヒ」などの多様な病気名が見られた。
- ・ 前回調査と比べて、「かかっていない」の比率が若干低下し、「てんかん」の比率が若干増加している。

問26 慢性的な病気の状況（複数回答2）

（単位：%）

	平成13年	平成18年
ぜん息	6.4	7.6
アトピー性皮膚炎	8.8	8.3
てんかん	18.0	20.3
心臓疾患	18.1	19.4
肥満（医者から指導を受けている場合）	0.5	0.9
その他	16.9	18.1
かかっていない	34.2	30.7
不明・無回答	11.0	10.0
合計	114.1	115.3
N	590	459

- ・ 障害の種類別に見ると、「聴覚障害」と「肢体不自由」では「かかっていない」が最も多くなっているが、「内部障害」では「心臓疾患」の比率が特に高くなっている。

問5 障害の種類 × 問26 慢性的な病気の状況（複数回答2）

上段：実数（件）  
下段：横構成比（%）

問26		慢性的な病気の状況（複数回答2）							不明・無回答	回答者総数
問5	1. ぜん息	2. アトピー性皮膚炎	3. てんかん	4. 心臓疾患	5. 肥満	6. その他	7. かかっていない			
障害の種類	1. 視覚障害	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 33.3	3 33.3	2 22.2	9 100.0
	2. 聴覚障害	9 9.5	16 16.8	2 2.1	4 4.2	0 0.0	11 11.6	46 48.4	17 17.9	95 100.0
	3. 肢体不自由	20 8.1	15 6.0	87 35.1	14 5.6	3 1.2	48 19.4	81 32.7	19 7.7	248 100.0
	4. 内部障害	6 6.1	5 5.1	4 4.0	71 71.7	1 1.0	18 18.2	9 9.1	6 6.1	99 100.0
	不明・無回答	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5	2 25.0	2 25.0	8 100.0
	回答者総数	35 7.6	38 8.3	93 20.3	89 19.4	4 0.9	83 18.1	141 30.7	46 10.0	459 100.0

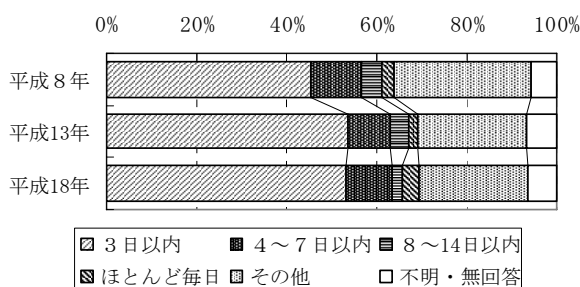
### (3) 慢性的な病気の治療日数

問27-1 「問26」で、「1. ぜん息」から「6. その他」までのいずれかをお答えの方)その病気の治療のため、1か月に何日ぐらい治療を受けに行っておられますか。(延べ日数でお答えください。)

- ・ 今回調査では、「3日以内」が53.3%で最も多く、次いで、「その他」が24.3%と続いている。「その他」の具体的内容としては、「数箇月に1回」、「悪化した場合」、「経過観察」などの記述が見られた。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて大きな変化は見られない。

問27-1 慢性的な病気の治療日数

	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
3日以内	45.4	53.5	53.3
4～7日以内	11.1	9.7	9.9
8～14日以内	4.6	4.0	2.6
ほとんど毎日	2.8	1.8	3.7
その他	30.6	24.3	24.3
不明・無回答	5.6	6.7	6.3
合計	100.0	100.0	100.0
N	108	329	272



### (4) 障害の診断・判定場所

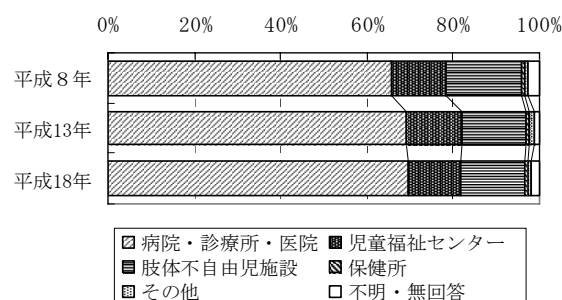
問28 お子さんの障害は、どこで診断・判定を受けて、はっきりしたことがわかりましたか。1つお答えください。

- ・ 障害の判断・判定場所については、今回調査では「病院・診療所・医院」が69.7%を占め最も多く、次いで「肢体不自由児施設」が14.8%、「児童福祉センター」が12.2%と続いている。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて大きな違いは見られない。

問28 障害の診断・判定場所

	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
病院・診療所・医院	65.7	69.3	69.7
児童福祉センター	12.7	12.7	12.2
肢体不自由児施設	17.3	15.1	14.8
保健所	0.9	0.7	0.7
その他*	0.7	1.0	0.7
不明・無回答	2.7	1.2	2.0
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459

\* 平成18年以外は「その他」に「学校」を含む



(5) 障害判定時の悩み

問29 お子さんの障害状況について診断・判定を受けた頃、ご家族（保護者）のみなさんのご苦労、お悩み、不安はいかがでしたか。最も近いものを2つまでお答えください。

- ・ 今回調査では、「療育上の相談相手がなかった」が34.6%で最も多く、次いで「介護の手助けがほしかった」が19.2%と続いている。それ以外の悩みの比率もすべて10%台となっており、悩みが多岐にわたっている状況がうかがえる。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「早期の制度的な検診がほしかった」や「保健所等でもっと指導ほしかった」の比率が低下し、逆に「療育上の相談相手がなかった」や「適切な療育施設がほしかった」の比率が増加している。

問29 障害判定時の悩み（複数回答2）

（単位：%）

	平成8年	平成13年	平成18年
早期の制度的な検診がほしかった	16.3	16.6	12.2
療育上の相談相手がなかった	33.6	30.3	34.6
適切な医療機関がほしかった	15.0	15.3	16.6
適切な療育施設がほしかった	11.3	10.2	14.6
保健所等でもっと指導がほしかった	25.5	21.9	18.3
介護の手助けがほしかった	18.6	18.8	19.2
家族の仕事上に問題が生じた	13.5	15.4	15.3
医療費に悩んだ	9.9	11.2	12.2
その他	17.2	18.1	17.6
不明・無回答	7.3	6.9	5.7
合計	168.1	164.7	166.2
N	565	590	459

- ・ 障害の種類別に見ると、該当者の少ない「視覚障害」を除くと、「聴覚障害」では「早期の制度的な検診がほしかった」と「療育上の相談相手がなかった」の比率が高く、「肢体不自由」では「療育上の相談相手がなかった」と「介護の手助けがほしかった」の比率が高く、「内部障害」では「療育上の相談相手がなかった」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問29 障害判定時の悩み（複数回答2）

上段：実数（件）  
下段：構成比（%）

問5 障害の種類	問29 障害判定時の悩み（複数回答2）	問29 障害判定時の悩み（複数回答2）									不明・無回答	回答者総数
		1. 早期の制度的な検診がほしかった	2. 療育上の相談相手がなかった	3. 適切な医療機関がほしかった	4. 適切な療育施設がほしかった	5. 保健所等でもっと指導がほしかった	6. 介護の手助けがほしかった	7. 家族の仕事上に問題が生じた	8. 医療費に悩んだ	9. その他		
障害の種類	1. 視覚障害	1	5	2	1	1	1	1	1	3	0	9
		11.1	55.6	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	33.3	0.0	100.0
	2. 聴覚障害	26	28	14	12	21	11	11	13	18	5	95
		27.4	29.5	14.7	12.6	22.1	11.6	11.6	13.7	18.9	5.3	100.0
	3. 肢体不自由	22	89	48	40	43	56	40	26	40	11	248
	8.9	35.9	19.4	16.1	17.3	22.6	16.1	10.5	16.1	4.4	100.0	
4. 内部障害	4	35	12	12	17	17	18	16	19	10	99	
	4.0	35.4	12.1	12.1	17.2	17.2	18.2	16.2	19.2	10.1	100.0	
不明・無回答	3	2	0	2	2	3	0	0	1	0	8	
	37.5	25.0	0.0	25.0	25.0	37.5	0.0	0.0	12.5	0.0	100.0	
回答者総数	56	159	76	67	84	88	70	56	81	26	459	
	12.2	34.6	16.6	14.6	18.3	19.2	15.3	12.2	17.6	5.7	100.0	

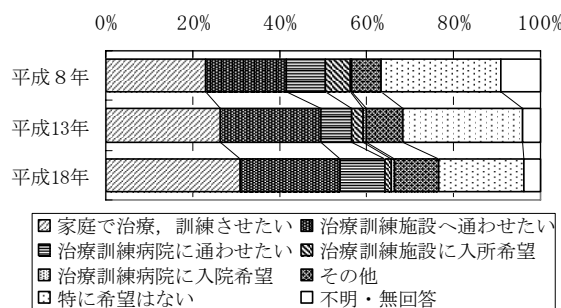
(6) 今後の治療、訓練についての希望

問30 お子さんの今後の治療、訓練についてどのような希望をお持ちでしょうか。ご希望に最も近いものを1つお答えください。

- ・ 今回調査では、「家庭で治療、訓練させたい」が30.9%で最も多く、次いで「治療訓練施設へ通わせたい」が22.9%、「特に希望はない」が19.6%と続いている。
- ・ 経年的には、「家庭で治療、訓練させたい」の比率が増加傾向にあり、「特に希望はない」の比率が減少している。

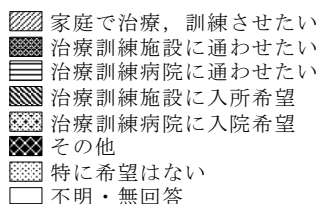
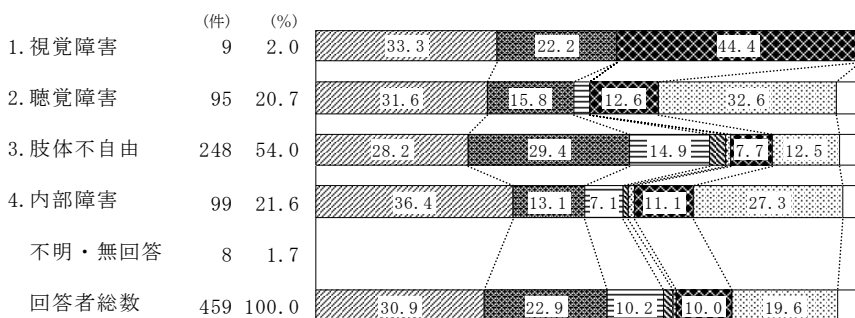
問30 今後の治療、訓練についての希望

	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
家庭で治療、訓練させたい	22.8	26.3	30.9
治療訓練施設へ通わせたい	18.8	23.1	22.9
治療訓練病院に通わせたい	9.0	7.5	10.2
治療訓練施設に入所希望	5.5	2.4	1.7
治療訓練病院に入院希望	0.5	1.0	0.7
その他	6.7	8.0	10.0
特に希望はない	27.6	27.8	19.6
不明・無回答	9.0	4.1	3.9
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



- ・ 障害の種類別に見ると、該当者の少ない「視覚障害」を除くと、「聴覚障害」では「特に希望はない」の比率が高く、「肢体不自由」では「治療訓練施設に通わせたい」と「家庭で治療、訓練させたい」の比率が高く、「内部障害」では「家庭で治療、訓練させたい」と「特に希望はない」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問30 今後の治療、訓練についての希望



## 7. 災害時の対応

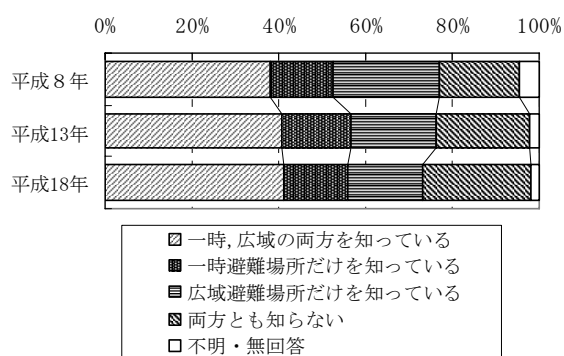
### (1) 避難場所の認知

**問31 あなたのご家庭では、火事や地震などの災害時に避難する場所として、あなたの地域に「一時避難場所」や「広域避難場所」がありますか。**

- ・ 今回調査では、「一時、広域の両方を知っている」が41.0%で最も多く、次いで「両方とも知らない」が24.8%と続いている。
- ・ 経年的には、「両方とも知らない」の比率が増加傾向にある。

問31 避難場所の認知

	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
一時、広域の両方を知っている	38.2	40.7	41.0
一時避難場所だけを知っている	14.3	16.1	15.0
広域避難場所だけを知っている	24.4	19.5	17.2
両方とも知らない	18.6	21.4	24.8
不明・無回答	4.4	2.4	2.0
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



(2) 災害時の単独避難の可否

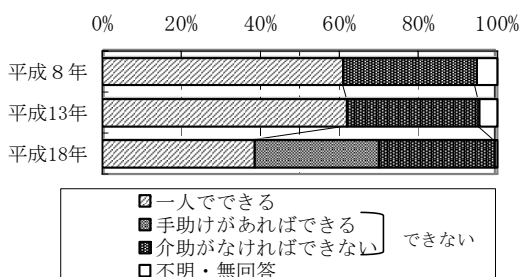
問32 あなたのお子さんは、災害時、家の外に逃げるができますか。

- ・ 6歳以上の子どもについて見ると、「一人でできる」が38.6%で最も多く、次いで「手助けがあればできる」が31.4%、「介助がなければできない」が29.4%と続いている。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「一人でできる」の比率が大幅に低下し、「一人でできない（手助けがあればできる＋介助がなければできない）」の比率が増加している。

問32 災害時の単独避難の可否（6歳以上）\*

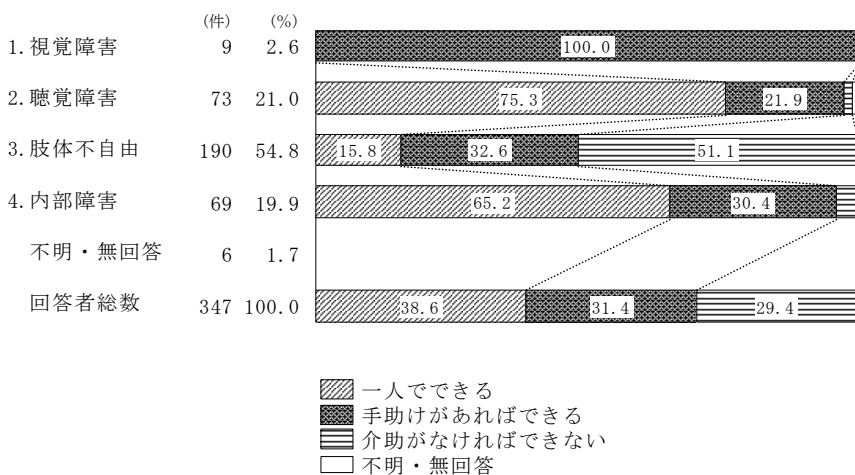
	(単位:%)		
	平成8年	平成13年	平成18年
一人でできる	50.3	51.4	38.6
手助けがあればできる	46.9	47.4	31.4
介助がなければできない			29.4
不明・無回答	2.8	1.2	0.6
合計	100.0	100.0	100.0
N	433	420	347

\* 平成18年以外は「できる」「できない」の二択



- ・ 障害の種類別では、「視覚障害」と「肢体不自由」において「一人でできない（手助けがあればできる＋介助がなければできない）」の比率が高くなっている。

問5 障害の種類 × 問32 災害時の単独避難の可否（6歳以上）



(3) 自主防災組織の認知

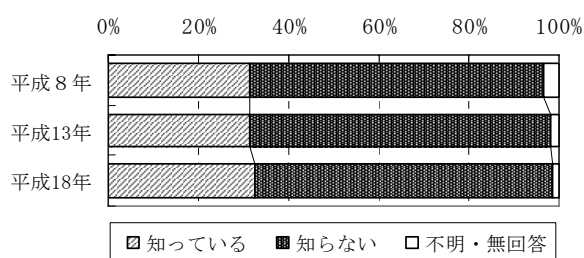
問33 災害に巻き込まれた時、地域の住民同士で助け合うことを目的とした「自主防災組織」が、市内の各地域で結成されていることを、あなたのご家庭ではご存じですか。

- ・ 今回調査では、「知っている」が32.5%、「知らない」が66.0%となっている。
- ・ 経年的には、大きな変化は見られない。

問33 自主防災組織の認知

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
知っている	31.3	31.2	32.5
知らない	65.1	66.8	66.0
不明・無回答	3.5	2.0	1.5
合計	100.0	100.0	100.0
N	565	590	459



(4) 自主防災組織への参加状況

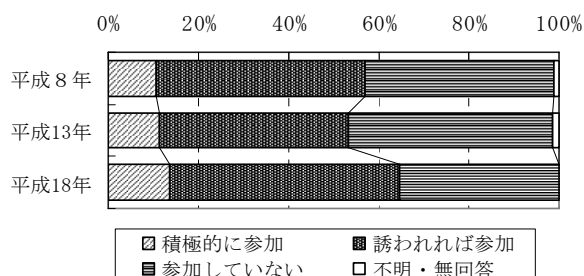
問34-1 (「問33」で「1. 知っている」とお答えの方) あなたのご家庭では、自主防災組織の活動に参加されていますか。

- ・ 今回調査では、「誘われれば参加」が51.0%で最も多く、次いで「参加していない」が35.6%、「積極的に参加」が13.4%と続いている。
- ・ 前回調査と比べて、「積極的に参加」や「誘われれば参加」の比率が増加し、「参加していない」の比率が減少している。

問34-1 自主防災組織への参加状況

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
積極的に参加	10.7	11.4	13.4
誘われれば参加	46.3	41.8	51.0
参加していない	41.8	45.1	35.6
不明・無回答	1.1	1.6	0.0
合計	100.0	100.0	100.0
N	177	184	149



## (5) 災害時の不安

問35 あなたのお子さんが災害に巻き込まれた時に、あなたはどのようなことに不安を感じますか。主なものを2つまでお答えください。

- ・ 「自分で避難ができない」が60.3%で最も多く、次いで「医療器具の使用・服薬ができなくなる」が33.8%、「初期消火ができない」が22.4%となっている。

問35 災害時の不安〈複数回答2〉

(単位:%)

	平成18年
自分で避難ができない	60.3
初期消火ができない	22.4
医療器具の使用・服薬ができなくなる	33.8
避難所での滞在	11.3
情報の取得	14.4
その他	9.8
特になし	12.4
不明・無回答	2.6
合計	167.1
N	459



## 8. 福祉施設の利用及び福祉施策への要望など

### (1) 悩みごとの相談先

問36 あなたは、お子さんの障害のことなどで悩んだり心配したとき、また福祉サービスに関する情報を知りたいとき、どのようなところで相談されますか。主なものを3つまでお答えください。

- ・ 今回調査では、「医療機関」が 64.9%で最も多く、次いで、「福祉事務所など市の専門機関」が 60.6%、「家族・知人」が 56.9%、「学校・会社」が 35.3%などと続いている。
- ・ 経年的には、前回調査と比べて「医療機関」の比率が増加し、「障害のある市民団体」の比率が減少している。

問36 悩みごとの相談先〈複数回答3〉

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
福祉事務所など市の専門機関	71.2	60.7	60.6
障害のある市民団体	19.1	12.2	9.4
民生委員・児童委員	3.4	1.4	1.7
身体障害者相談員	7.1	3.1	1.7
社会福祉施設職員	11.7	3.4	4.8
障害者地域生活支援センター*	-	16.8	9.8
ホームヘルパー	0.5	0.3	2.4
ボランティア	3.0	0.7	0.7
学校・会社	-	36.1	35.3
医療機関	-	57.8	64.9
家族・知人	67.4	54.9	56.9
その他	26.7	6.9	7.6
不明・無回答	5.0	2.9	1.7
合計	114.3	257.1	257.5
N	565	590	459

\* 平成13年は「障害者生活支援センター」1.0%と「地域生活支援センター」15.8%の合算

## (2) 今後の相談内容

問37 あなたは、お子さんのことで、今後どのような相談をしたいと思いますか。主なものを3つまでお答えください。

- ・ 今回調査では、「医療・健康のこと」が61.7%で最も多く、次いで「教育のこと」が60.8%となっており、この両者の比率が特に高くなっている。
- ・ 経年的には、「医療・健康のこと」や「収入のこと」などの比率が増加傾向にある。

問37 今後の相談内容〈複数回答3〉

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
医療・健康のこと	55.8	58.0	61.7
教育のこと	60.2	60.3	60.8
仕事のこと	37.0	34.4	36.6
収入のこと	9.4	11.2	13.5
福祉サービスの利用・介助のこと*	20.7	39.7	39.0
日常生活の悩みのこと	35.0	34.4	33.6
災害時の避難方法などのこと	11.9	7.6	8.9
その他	7.6	4.4	5.2
不明・無回答	6.7	3.2	2.0
合 計	244.2	253.2	261.2
N	565	590	459

\* 平成8年は「介助のこと」

(3) 利用を希望する施設・障害者施策

問38 あなたは、どのような施設や障害者施策の利用を希望されますか。主なものを3つまでお答えください。

- ・ 「障害者地域生活支援センター」が42.9%で最も多く、次いで「ショートステイ」が23.5%と続いている。

問38 利用を希望する施設・障害者施策（複数回答3）  
（単位：%）

	平成18年
障害者地域生活支援センター	42.9
ホームヘルプサービス	12.9
ショートステイ	23.5
ガイドヘルパー	17.6
重度障害者等包括支援	12.6
デイサービス	10.2
就労移行支援，職業訓練校	17.6
授産施設，福祉工場，共同作業所	7.0
自立訓練を行う施設	12.0
施設入所支援	4.8
ケアホーム，福祉ホーム	3.1
重症心身障害児（者）施設	12.4
公営住宅	11.3
老人ホームなどの施設	18.1
スポーツ施設	14.6
サークル活動，文化活動などのできる施設	14.6
その他	5.7
不明・無回答	7.4
合計	248.4
N	459

第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果

- ・ 障害の種類別では、該当者の少ない視覚障害を除くと、「聴覚障害」、「肢体不自由」、「内部障害」共に「障害者地域生活支援センター」の比率が最も高くなっている。

問5 障害の種類 × 問38 利用を希望する施設・障害者施策〈複数回答3〉

問38		利用を希望する施設・障害者施策〈複数回答3〉									
問5		1. 障害者地域 生活支援セ ンター	2. ホームヘル プサービス	3. ショートス テイ	4. ガイドヘル パー	5. 重度障害者 等包括支援	6. デイサービ ス	7. 就労移行支 援、職業訓 練校	8. 授産施設、 福祉工場、 共同作業所	9. 自立訓練を 行う施設	10. 施設入所支 援
障害 の 種 類	1. 視覚障害	3 33.3	0 0.0	2 22.2	5 55.6	0 0.0	0 0.0	4 44.4	0 0.0	2 22.2	1 11.1
	2. 聴覚障害	52 54.7	3 3.2	9 9.5	5 5.3	5 5.3	2 2.1	31 32.6	1 1.1	13 13.7	1 1.1
	3. 肢体不自由	93 37.5	49 19.8	78 31.5	56 22.6	47 19.0	40 16.1	31 12.5	21 8.5	28 11.3	17 6.9
	4. 内部障害	49 49.5	7 7.1	18 18.2	14 14.1	6 6.1	5 5.1	15 15.2	10 10.1	12 12.1	2 2.0
	不明・無回答	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5
	回答者総数	197 42.9	59 12.9	108 23.5	81 17.6	58 12.6	47 10.2	81 17.6	32 7.0	55 12.0	22 4.8

上段：実 数 (件)  
下段：構 成 比 (%)

問38		利用を希望する施設・障害者施策〈複数回答3〉									
問5		11. ケアホーム 、福祉ホー ム	12. 重度障害が 重複する方 が、治療や	13. 公営住宅	14. 老人ホーム などの施設	15. スポーツ施 設	16. サークル活 動、文化活 動などので	17. その他	不 明 回 答	・ 答	回答者総数
障害 の 種 類	1. 視覚障害	0 0.0	0 0.0	2 22.2	1 11.1	4 44.4	1 11.1	2 22.2	0 0.0	0	9 100.0
	2. 聴覚障害	3 3.2	2 2.1	13 13.7	21 22.1	21 22.1	21 22.1	6 6.3	8 8.4	8	95 100.0
	3. 肢体不自由	6 2.4	53 21.4	25 10.1	41 16.5	31 12.5	34 13.7	8 3.2	10 4.0	10	248 100.0
	4. 内部障害	4 4.0	1 1.0	12 12.1	18 18.2	11 11.1	11 11.1	10 10.1	11 11.1	11	99 100.0
	不明・無回答	1 12.5	1 12.5	0 0.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 62.5	8 100.0
	回答者総数	14 3.1	57 12.4	52 11.3	83 18.1	67 14.6	67 14.6	26 5.7	34 7.4	34	459 100.0

(4) 福祉施策への要望

問39 お子さんにとって、今後、特に必要とされるもの、または強く望みたいことがありますか。次のうちから最も近いものを5つまでお答えください。

- ・ 今回調査では、「公的年金等所得保障の充実」が 59.9%、「障害のある人に理解と関心をもつ」が 43.1%、「障害者医療等医療制度の拡充」が 39.4%、「日常生活用具等改善、開発」が 39.0%などと続いている。
- ・ 経年的には、「公的年金等所得保障の充実」、「医療費軽減等」や「障害者医療等医療制度の拡充」などの比率が増加している。

問39 福祉施策への要望〈複数回答5〉

(単位:%)

	平成8年	平成13年	平成18年
専門的な機能回復訓練	21.9	23.7	23.7
医師等による訪問指導	8.5	7.6	6.5
医療費軽減等	21.2	24.7	34.6
障害者医療等医療制度の拡充	31.5	28.0	39.4
日常生活用具等改善、開発	37.2	34.1	39.0
介助体制の充実	22.8	20.2	20.9
手話通訳、点訳、ガイドヘルパー等の充実	14.7	12.9	12.9
障害状況に応じた職業訓練	22.1	19.0	19.2
障害のある人の雇用促進	40.9	31.9	33.8
公的年金等所得保障の充実	48.8	46.9	59.9
障害のある人に理解と関心をもつ	55.2	50.0	43.1
各種の相談事業の充実	16.5	14.4	10.2
バリアフリーのまちづくり	44.6	42.9	34.2
スポーツ、文化活動等に参加したい	15.4	11.2	10.2
障害のある人の権利を守る施策	-	26.8	24.0
家族のリフレッシュ事業	-	27.3	21.4
その他	5.8	5.4	2.8
不明・無回答	7.3	4.6	2.8
合計	384.1	431.5	438.8
N	565	590	459

- ・ 障害の種類別では、いずれの障害においても「公的年金等所得保障の充実」が最も多く 50%を超えている。それ以外の要望で比率の高い項目としては、「聴覚障害」で「障害のある人への理解と関心」、「日常生活用具等改善、開発」の比率が高く、「肢体不自由」では「バリアフリーのまちづくり」、「障害者医療等医療制度の拡充」、「日常生活用具等改善、開発」が、「内部障害」では「医療費軽減等」、「障害のある人に理解と関心をもつ」、「障害者医療等医療制度の拡充」などが高くなっている。

## 第4章 身体障害児生活状況調査（18歳未満）結果

問5 障害の種類 × 問39 福祉施策への要望（複数回答5）

問39		福祉施策への要望（複数回答5）									
問5		1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.
		専門的な機能回復訓練	医師等による訪問指導	医療費軽減等	障害者医療等医療制度の拡充	日常生活用具等改善, 開発	介助体制の充実	手話通訳, ガイドヘルパー等の充実	障害状況に応じた職業訓練	障害のある人の雇用促進	公的年金等所得保障の充実
障害の種類	1. 視覚障害	0 0.0	1 11.1	2 22.2	2 22.2	4 44.4	3 33.3	3 33.3	3 33.3	5 55.6	6 66.7
	2. 聴覚障害	10 10.5	6 6.3	37 38.9	32 33.7	50 52.6	5 5.3	38 40.0	23 24.2	37 38.9	57 60.0
	3. 肢体不自由	87 35.1	16 6.5	72 29.0	103 41.5	103 41.5	77 31.0	15 6.0	47 19.0	75 30.2	154 62.1
	4. 内部障害	11 11.1	7 7.1	46 46.5	42 42.4	19 19.2	10 10.1	3 3.0	15 15.2	37 37.4	54 54.5
	不明・無回答	1 12.5	0 0.0	2 25.0	2 25.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	4 50.0
	回答者総数	109 23.7	30 6.5	159 34.6	181 39.4	179 39.0	96 20.9	59 12.9	88 19.2	155 33.8	275 59.9

上段：実数（件）  
下段：構成比（%）

問39		福祉施策への要望（複数回答5）								
問5		11.	12.	13.	14.	15.	16.	17.	不 無 明 回 答	回答者総数
		障害のある人に理解と関心をもつ	各種の相談事業の充実	バリアフリーのまちづくり	スポーツ, 文化活動等への参加	障害のある人の権利を守る施策	家族のリフレッシュ事業	その他		
障害の種類	1. 視覚障害	4 44.4	0 0.0	4 44.4	4 44.4	2 22.2	0 0.0	1 11.1	0 0.0	9 100.0
	2. 聴覚障害	51 53.7	10 10.5	13 13.7	10 10.5	30 31.6	17 17.9	2 2.1	1 1.1	95 100.0
	3. 肢体不自由	95 38.3	26 10.5	122 49.2	18 7.3	50 20.2	59 23.8	6 2.4	4 1.6	248 100.0
	4. 内部障害	45 45.5	11 11.1	18 18.2	15 15.2	25 25.3	21 21.2	3 3.0	6 6.1	99 100.0
	不明・無回答	3 37.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0	8 100.0
	回答者総数	198 43.1	47 10.2	157 34.2	47 10.2	110 24.0	98 21.4	13 2.8	13 2.8	459 100.0